

佛教大学社会連携センター年報

第 10 号

2024 年 6 月

佛教大学社会連携センター

目次

本文中の所属・役職は 2023 年度当時のものです

1. 巻頭言	作田誠一郎	2
産学公連携の取り組みについて	大藪 俊志	4
2. 特集		
京都中小企業家同友会北支部の例会を本学で開催	山下 仁男	6
大宮交通公園（北区）、BiVi 二条（中京区）における学生の地域貢献活動の推進／ 大和リース株式会社との連携	山下 仁男	8
ぶつだいちびっこひろば活動報告について	白井はる奈	10
パラスポーツを身近に！車いすハンドボール・車いすバスケットボール体験会	宮本 泰子	12
「大学×産学連携ゼミ」の取り組み	山下 仁男	14
学生企画まちづくりプロジェクト	田畑 瑛士	16
佛教大学ボランティア支援金制度	田畑 瑛士	19
3. 委託事業		
2023 年度二条駅地域安全ネットワーク活動報告	山本 奈生	20
大津市歴史博物館「大津市内古文書（膳所藩士文書）調査・整理業務」	麓 慎一	21
4. 連携事業の取り組み		
①モデルフォレスト運動	宮本 泰子	23
②第 9 回浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会	山下 仁男	26
③京都市立北総合支援学校との連携事業	山下 仁男	29
5. 社会連携センタープロジェクト		
①防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト	作田誠一郎	32
②鷹峯地域活性化プロジェクト	山下 仁男	35
③大学発進（信）プロジェクト	谷本 和也	38
④知ってる？パラスポーツの魅力 ～ Do You Know the Power of Parasports? ～	白井はる奈	40
⑤ホテルとまちの魅力発信プロジェクト	宮本 泰子	42
6. 地域福祉フィールドワーク事業		
見守りホットライン	加美 嘉史	45
7. 学生ボランティア室	宮本 泰子	48
8. 学生消防防災サークル「佛教大学 FAST」	山本 奈生	50
9. SDGs 推進プロジェクト	田畑 瑛士	52
10. 社会連携センター活動記録		
①京都市北区連携事業		53
②京都市中京区連携事業		55
③北野商店街（京都市上京区）連携事業		56
④南丹市連携事業		56
⑤社会連携センタープロジェクト		57
⑥地域福祉フィールドワーク事業		59
⑦学生ボランティア室		60
⑧学生消防防災サークル「佛教大学 FAST」		64
⑨ SDGs（持続可能な開発目標）推進プロジェクト		64
⑩学生企画まちづくりプロジェクト		64
⑪佛教大学ボランティア支援金制度		65
⑫受託事業・受託研究		65
⑬その他の活動		65
⑭ホームページ掲載記録		67
⑮社会連携センター運営会議開催記録		69
11. 資料 社会連携センター組織、規程		70
12. 編集後記	内田 仁	74

1. 巻頭言

研究推進機構長 作田 誠一郎

はじめに、『佛教大学社会連携センター年報』の第10号という記念すべき号が刊行されたことについて、改めてご尽力いただいた関係各位にお礼を申し上げたい。

2023年度は、新型コロナウイルスの影響による活動の自粛も緩和され、活動自体が流行以前に回復した感がある。実際に地域のイベントや祭事等の行事も実施され、学生の企画や活動する場が今後期待される状況になった。

ところで、巻頭言にあたり近年さまざま場面で話題にあがっているAI (Artificial Intelligence) についてふれてみたい。対話型AIである「ChatGPT」をアメリカのOPEN AI社が開発して無料公開されたことで、多くのアクティブユーザーが増加したことは記憶に新しい。各企業もその利用に関して、その利用方法やプライバシー保護など、その対応に迫られている。しかし、実際の利用分野は急速に広まっている。医療分野では、検診や治療に際して人間が見落とししてしまうような僅かな病変を高度な解析機能を用いて発見することで患者の治療と医師の支援が期待されている。また金融分野では、顧客のデータの分析やリスク管理等に利用されている。

社会学者のアンソニー・エリオットは、著書『デジタル革命の社会学』（2022）の中で、近い将来にAIがもたらすと思われるさまざまな構造的変動を論じている。そのなかで、以下の8つの論点を提示しており、その影響について説明している。

① デジタルな世界がAIと直接結びついているが、テクノロジーの変化はビッグデータやスマートシティ、IoE (Internet of Everything) などのテクノロジーが関連している部分に限られる。② AIは未来のことでなく、生活のなかでAIが飽和している状況にある。③ AIは個人の生活に浸透しておりセルフ・アイデンティティの性質や社会的関係の形を再編している。④ 私たちが日常生活でおこなうことは、AIによって組織化され媒介されている。しかし、AIは電気のように目に見えない状況で日常生活の構造を変化させ、急速に汎用的なテクノロジーになりつつある。⑤ AIによって労働市場と雇用がデジタルなものによって分断されつつあり、AIによって失われる仕事がある一方で、強化される仕事や創出される仕事がある。したがって、デジタルスキルは重要になる。⑥ AIのグローバルな変容は、「トークと日常生活」のレベルであり、人びとのコミュニケーションと会話に大きな影響をおよぼす。例えば、チャットボットやバーチャルなパーソナル・アシスタントは人びとの生活に欠かせないものになる。⑦ AIの進展は、モバイルで状況を把握し適応し、他のインテリジェントマシン（自動運転車やドローンなど）にネットワークを介して接続して、コミュニケーションを再編する。⑧ 技術革新と科学的発見は、社会や経済、政策や文化を超えてAIの範囲と強度を劇的に高めている。次の展開にある経口の外科用ロボットや軍用のマイクロ・ドローンなど、非常に高い不確実性を伴う状況に際して、社会がAIの文化の不確実性を容認してそれに対して創造的に反応し、その進化にオープンになることができるのかという問題が現れる。

少し長い紹介となったが、AIには日常生活を超えて社会経済や文化に影響を与えることがわかる。その影響は、目に見えない状況で人びとのコミュニケーションレベルから政治経済レベルといった広範におよぶことがうかがい知れる。しかし、そこにはAIの恩恵だけではなく新たな問題も生じさせる。例えば、デジ

タルな監視装置の強化によって、私たちの日常生活は監視され、その監視権力の構造が制度化されていくかもしれない。また AI の利用においては、常に不確実性を伴うことにも注意が必要であろう。

近年、AI を用いたサービスも増加してきた。AI エージェントや自律型のアバターによる接客も金融機関をはじめとした企業で取り入れつつある。その導入の背景には、人件費の削減や 24 時間の対応が可能であり、プログラムによっては専門的で顧客の要望に応じた回答を即時にできるという利点があげられる。一方、直接に利用者の顔が見えない状況下の対応であるため、信頼感や感情が共有し難く利用者の不満が生じる場合もある。またプログラムに至っていない質問への回答が難しいことやインターネット環境が不安定な状況になった場合は、コミュニケーションに支障をきたすことがデメリットとしてあげられる。さらに自律型のアバターを用いた接客において、個人情報や特定の秘密に関して管理や漏洩の問題も生じる。またその回答において、ChatGPT などが生成する回答が事実と異なる場合や差別的な発言を発する可能性もある。その際に、回答に対する信頼性や倫理的な責任の所在についてしっかりと利用者に担保する必要がある。

このような AI のメリットとデメリットとともに、現状として AI の受け止め方にも差異があるように思われる。それは、AI に対する信頼と懐疑の違いかもしれない。つまり、AI を人間として捉えることができれば、新たなコミュニケーションの展開が期待でき、AI を機械として捉えるならば最終的なコミュニケーションの相手は生身の人間であると言えよう。これを先のアバターに置き換えれば、完全な自律型 AI のアバターを受容するか、アバターを操作する人間を常に要求するかというコミュニケーションに係る価値観の相違である。

これを大学において考えてみたい。大学は、コロナ禍を経て Zoom 等のコミュニケーションツールを否応なしに受容して、授業を中心として大学運営を進めてきた経緯がある。そのなかで、ChatGPT によるレポート課題や試験に対する対応が各大学に迫られたことは記憶に新しい。今後、AI 技術の進展が大学という組織のなかで取り入れられ、業務等の簡素化に貢献することは確かであろう。しかし、AI の合理的な判断や対応が人間に代替することは本当に可能であろうか。それは、大学が対応する相手は、青年期にあたる学生だからである。社会学者の大澤真幸は、共著『私たちは AI を信用できるか』（2022）において、AI の認識や思考が人間にどれくらい近づいたのかを考えるよりも AI が人間のようにできないことを通じて見える人間に対する新たな知見について指摘している。人間に内在する生の有限性から生じる思考や判断、そして規範的な価値観から生じるさまざまな言動など、対人間とのコミュニケーションが帯びる効果についても改めて見つめる機会が今かもしれない。学生が何を思って通学し、何を学び、どのような時間を過ごしたいのか。大学という場や大学生という立場で得られる体験は、合理性や利便性だけでは得られないものを多分に含んでいるのではないだろうか。大学という空間は、学生にとって社会人となる前の「モラトリアム」な期間であり、学生自身も精神分析学者のエリク・H・エリクソンが提唱する「アイデンティティと同一性の拡散」を発達課題とする青年である。そのような期間が、学生の人間形成やその後の人生において大きな糧になり、その後の進路にも影響することが推察される。そのなかで、人と人とのコミュニケーションと人と AI のコミュニケーションの比率は、今後の大学の在り方や存在自体にも大きな課題となる。

社会連携センターの活動は、人と人のコミュニケーションが中心となり成立している。その活動は、さまざまな人と人のつながりを形にした内容が多く、そこに関わる人びとの協力のもとで新たな課題解決を模索してプロジェクトを前進させていくことが求められる。今後も AI を含め、どのような社会連携や社会貢献が可能なのかを「人」を中心に展開していくことが望まれる。

産学公連携の取り組みについて

社会連携センター長 大藪 俊志

産学連携の活動に官（行政）など幅広いセクターを含める産学公連携の取り組みは、一般に「内外の学術・文化・産業の諸活動と連携しつつ、教育による人材育成と、研究による学術貢献を展開するとともに、学術研究の成果を広く社会に還元し、もって産業・文化をはじめ社会全体の発展に寄与することを目的」とする活動と理解される⁽¹⁾。

産学公連携の活動は、「地域に開かれた高等教育」を掲げる近年の高等教育政策においても重視される取り組みであり、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」（2013 年度開始）、「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R）」（2020 年度開始）、「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」（2018 年 6 月公布）、「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン～地域に貢献し、地域に支持される高等教育へ～」（2020 年 10 月公表）等々一連の施策では、地域の中核となる大学の実現という目標とともに、地域における人材の養成と若者の地元定着などを目指す地域活性化の観点も強調されるようになった⁽²⁾。

これらの施策のうち「地域連携プラットフォーム」の構築は、中央教育審議会「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（2018 年 11 月公表）の提言に基づき始められた施策である。この取り組みでは、「各地域において、大学等、地方公共団体、産業界等が連携し、地域社会のビジョンや高等教育を取り巻く現状と将来像について共有・理解を図り、お互いの立場を越えて恒常的に議論を交わすことができる」体制を「地域連携プラットフォーム」と呼称する⁽³⁾。

現在活動を実施している「地域連携プラットフォーム」の事例をみると、青森県内の高等教育機関（16 校）⁽⁴⁾で構成される「青森創生人材育成・定着推進協議会」（2020 年設立）は、「地域の課題を解決できる人材育成」「地元定着を目指した取組みの推進」を事業の目的として掲げ、県内に 4 つのブロック（青森ブロック、弘前ブロック、むつブロック、八戸ブロック）を設け各種事業を展開するとともに、自治体・経済団体などと意見交換・協議を行なう場として「産官学情報交換会」を設置している⁽⁵⁾。

「青森創生人材育成・定着推進協議会」を構成する高等教育機関と自治体・経済団体等との連携協力事業の内容は、学生のインターンシップへの受け入れ、新卒者の採用、キャリア教育におけるゲストスピーカーの招聘、講演会への講師の招聘、学生の県内定着に係る情報提供など多岐にわたり、県内各ブロックでは、企業情報の提供、合同企業説明会・企業就職セミナーの開催、インターンシップの実施など様々な事業が取り組まれている⁽⁶⁾。具体的にみると、青森ブロックでは青森県立保健大学と青森商工会議所の共催による「学生と企業人の本音トーク」や、ブロック内の大学に在籍する学生が参加する産学共同「あおもりワークショップ」が開催された（2023 年度実施）⁽⁷⁾。これらの活動では、学生に対する青森県内の企業・事業所による情報発信の方法、若者が働きやすい職場づくり、学生の地元定着と地域への人材還流などの課題に関し、学生・産学公各セクターの関係者による議論、アンケートの実施、産学共同作品の作成などが取り組まれている。

京都府内においても一般社団法人京都知恵産業創造の森（2018 年 11 月設立）の主催によりオール京都を標榜する京都産学公連携プラットフォーム（大学等、経済団体、行政機関、金融機関などが参画）が設置されており、新商品の企画・開発、販売、プロモーションなど様々な取り組みが推進されている⁽⁸⁾。また、近畿経済産業局では、学生に対し地域・中小企業で働くことを身近に考える機会を設け、併せて中小企業の人材確保を支援するため、優良と見做される中小企業の経営者や若手社員を大学の講義等にゲストスピーカー

として招聘し、自社や地域で働く魅力を講演する事業を実施している⁽⁹⁾。このほか、一般社団法人京都中小企業家同友会では、活動方針においてインターンシップ、キャリア教育のサポートなど連携活動の推進を掲げており⁽¹⁰⁾、このような活動の一部に関し、本学の社会連携事業においても逐次協力・連携を実施している。

より広い政策の視点からみると、将来の国土のあり方を展望する「第3次国土形成計画（全国計画）」（2023年7月閣議決定）においても、地域を支える人材の確保・育成、地域の活性化、イノベーションの創出等々の諸課題に関し、大学に期待する役割を特に強調するようになった⁽¹¹⁾。今後の社会連携事業においても、国・自治体の政策・施策、企業・団体等の取り組みに留意しつつ、引き続き地域・関係団体との協力・連携に取り組むこととしたい。

〈出典〉

- (1) 東京都公立大学法人産学公連携センターホームページ (https://www.tokyo-sangaku.jp/sangaku_works/)。
- (2) 「地域に開かれた高等教育」に関する施策について、文部科学省『令和4年度 文部科学白書』 (https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/1420041_00015.htm) を参照。
- (3) 地域連携プラットフォームの概要に関し、文部科学省ホームページ（地域連携プラットフォームの構築） (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/platform/mext_00994.html) を参照。
- (4) 「青森創生人財育成・定着推進協議会」を構成する高等教育機関は、弘前大学、青森公立大学、青森県立保健大学、柴田学園大学、八戸工業大学、青森大学、弘前学院大学、八戸学院大学、青森中央学院大学、弘前医療福祉大学、柴田学園大学短期大学部、青森明の星短期大学、青森中央短期大学、八戸学院大学短期大学部、弘前医療福祉大学短期大学部、八戸工業高等専門学校である（2024年3月31日現在）。
- (5) 「青森創生人財育成・定着推進協議会」の概要、活動内容に関し、青森創生人財育成・定着推進協議会ホームページ (<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/network/>) を参照。
- (6) 青森創生人財育成・定着推進協議会ホームページ (<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/network/>)。
- (7) 「学生と企業人の本音トーク」「あおりワークショップ」等の具体的な活動内容に関し、青森創生人財育成・定着推進協議会「No.12 あおり創生☆News」 (<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/11/newsletter12.pdf>) を参照。
- (8) 「京都知恵産業創造の森」の産学公連携の取組みに関し、「産学公連携ナビ」 (<https://chiemori.jp/sangaku/>) を参照。京都産学公連携プラットフォーム会議には、本学を含む京都府内30の大学・短期大学・高等専門学校、京都府・京都市など行政機関・独立行政法人・外郭団体、京都商工会議所など経済団体、銀行・信用金庫などが参加している。
- (9) 近畿経済産業局の中小企業等によるゲストスピーカー事業に関し、近畿経済産業局ホームページ「働くなら近畿」 (<https://hatarakunarakinki.go.jp/pf/r2.html>) を参照。
- (10) 京都中小企業家同友会ホームページ「2023年度（第54期）活動方針」 (<https://kyoto.doyu.jp/policy>) を参照。
- (11) 「第3次国土形成計画（全国計画）」に関し、国土交通省ホームページ「国土計画」 (https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokeikaku_fr3_000003.html) を参照。

2. 特集

京都中小企業家同友会北支部の例会を本学で開催

社会連携課長 山下 仁男

地域の企業に興味がある、起業を考えている、経営者の方々と話してみたいと思う学生は多く、その実現のために自ら道を切り拓こうとする者も存在する。あるいは、幸運にも友人にそういったタイプがいることで、ご縁に恵まれるケースもあるだろう。しかし、多くの学生は、その一步の踏み出し方に躊躇している間に貴重な時間を失っている。そのため、大学ではキャリア形成プログラムや就職支援として、学内に様々な方をお招きしての企画を催している。学生は、まずはホームでそういった経験を積み、次にキャンパスを出て学外でのイベントやインターンシップ、実際の労働に参加するという段階を踏んでいく。

現在の社会連携課では、直接の業務として授業や就職支援は行っていない。ただ、例えば京都市北区であれば北区役所、北警察署、北消防署と区内4大学が包括連携協定のもと、安心・安全なまちづくり、より良いまちづくりのために協力しながら様々な取り組みを行なっている。今回、我々が意図したのは、この「まちづくり」の視点から、地域の企業や行政と学生とのマッチングをやってみよう、ということであった。

また、本学の地域連携活動の多くは、教員のゼミやフィールドでの授業、課外活動団体による公演活動が中心。我々はその調整や支援を行なうことで、自前のプロジェクトとともに、それらを本学の事業として位置付けている。当課が、私をはじめごく普通(?)の事務職員だけで構成される以上、その本流は今後も変わらないだろう。しかし、教員個人の専門性や研究領域、課外活動団体の取り組みに依存した展開だけでは、どうしても偏りが生じるとともに、それは結局、学生にとっての不利益でしかない。そのため、当課のような素人集団でもプロデュースできる仕掛けや事業展開を考えていた。その一つが、この「一般社団法人京都中小企業家同友会(以下、同友会)との連携」であった。

同友会との関係は、2022年12月に一般社団法人京都知恵産業創造の森を介して挨拶を交わしたところからスタートした。同友会は、京都府全域で約1,700名の中小企業の経営者が参加している。本学のキャンパス周辺にも、会員である経営者の方々がたくさんおられ、日々、地域を支える経済活動やまちづくりに取り組んでおられる。

そこで同友会の方々と協議を進める中で、地域の企業の方々に本学を知っていただく意味も込めて、本学での例会開催を提案した。内容は、同友会の趣旨に添い、第一部の鼎談では同友会(産)、北区役所(公)、本学(学)がまちづくりをテーマとしてそれぞれの立場から意見交換を行なう。第二部ではワークショップ形式で参加者が意見交換と交流を行ない、つながりづくりのきっかけとしてももらう。そこに学生も自由に参加してもらい、参加者同士の交流とともに、場合によっては地域の企業や行政の方々と距離を一気に縮めてしまえば、とも思っていた。

ここで、本事業の意図と概要を整理しておく。

- ① 来場された地域の中小企業の方々に本学を知ってもらうと同時に、学生が気軽に地域の企業の方々と出会い、会話や交流できる機会を設定

- ②これを継続することにより、学生に対しては、馴染みのあるキャンパス周辺地域に改めて目を向けるきっかけを増やす。さらに、その地域にはたくさんの中小企業が存在し、各々の経済活動に加えて多様な形でまちづくりに取り組んでいることや、行政が住民の暮らしをどのように支えているのかを身近に捉えてもらう
- ③このような学生と地域とのマッチング機会を増やし、社会連携・地域貢献の観点からのキャリア育成、就職支援、企業や行政側から見れば人材確保に取り組む。また、個別の企業や行政と当課（当センター）との関係を深める中で、そこにある課題についても共有し、改善や解決に向けた本学資源との接続や新たなプロジェクト開発をめざす
- ④このような地域、行政、学生（大学）の組織的なマッチングを通して、地域を大切に作る人材を地域に送り出していく取り組みを、本学の産学公連携の一つのスタイルとして確立させる
- ⑤結果として、キャンパス周辺地域と大学との良好な関係構築へとつなげる

■事業概要

事業名：一般社団法人京都中小企業家同友会 北支部例会

主催：一般社団法人京都中小企業家同友会 北支部

日時：2023（令和5）年9月29日（金）18:30～20:45

会場：紫野キャンパス第3会議室

鼎談者：川妻聖枝／京都市北区長

山本暢彦／一般社団法人京都中小企業家同友会北支部長

大藪俊志／佛教大学社会連携センター長

参加者：30名程度／会員、ゲスト（地域企業）、金融機関、北区役所等

※学生の一般参加も可能

参加費：無料

なお、今回参加した学生は2名に留まったが、最後の各グループからの発表ではそれぞれ発言の機会を与えていただき、学生視点からの意見や感想を堂々と述べていた。

そして、「こんなに経営者の方々といろいろなお話ができたのは初めて。ものすごくいい機会だったのに、友だちや周りの学生はほとんど知らないはず。もっともっとPRに力を入れて欲しかった」など、私たちへの叱咤があったことも記録しておく。

終わりに、こういった事業を通して考えたことを記す。

社会連携・地域貢献は大学の第三の使命とされ、様々な展開がなされているが、その多くは学生が地域に出て、地域をフィールドにした活動が多い。それはもちろん重要であるが、今こそ改めて、キャンパスに目を向けてみてはどうか。キャンパスが学びの場であることを、キャンパスでの学修力、教育力を高め、それを改めて学生たちに提示しよう。そして、キャンパスが安全安心な拠点であると認識してもらえよう、地域にも働きかけよう。

人と人（+予算）とがつながり連携だけでなく、キャンパスがつながり連携へ。その「キャンパス力」が学生を育て、地域を救う力にもなるはずである。



大宮交通公園（北区）、BiVi 二条（中京区）における学生の地域貢献活動の推進 ／大和リース株式会社との連携

社会連携課長 山下 仁男

まず、2023年10月30日（月）に京都市北区の大宮交通公園で実施した、教育学部臼井奈緒准教授と3年生のゼミ生6名による未就学児と保護者を対象とした「ワクワクのりものコンサート」の様子を、本学HPのトピックスから一部抜粋して紹介する。

穏やかな秋晴れの朝、公園内のコミュニティールームには、近隣の方々や幼稚園などから、なんと約150名も来場！ 続々と入場する子どもたちに、まずは今日の切符として自作の腕輪をつけてあげました。そして、交通公園にちなんで、いろんなのりもの歌が大集合！ と題したコンサートがいよいよスタート。

初めは少しざわざわしていた子どもたちも、「チキ・チキ・バン・バン」が静かに流れ始め、だんだん音量が上がっていくにつれて興味津々。「はたらくくるま」や「バスにのって」…などなど、パネルを使ったやりとりや、演奏で使用する様々な楽器の紹介もあり、最後には、「かもつれっしゃ」で出発～!! と、会場中をみんなで動き回ったりもしました。気がつけば、学生や子どもたち、保護者や付き添いの方々も一つになり、あっという間の1時間が過ぎていました。

扉を開放したコミュニティールームは、気持ち良い風と、皆さんの心地よさそうな声と笑顔が相まって、いつのまにかとても素敵な空間へと生まれ変わっていきました。

子どもたちはコンサート終了後も、会場内に作った線路の上を特製の乗り物で走り回ったり、写真コーナーを楽しんだりしていました。コンサートを終えて、少しほっとした様子の学生たちも、和んだ笑顔で楽しそうに子どもたちと過ごしていました。

今回のように、育児中の方々をはじめ、子どもから高齢者までが寄り添い合える公園づくり、地域づくりに協力できる機会は、学生たちにとって貴重な学びの場となります。また、ご来場いただきました皆様にはきっと楽しいひと時をお届けできたことと思います。

このような機会をいただきました主催者の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。そして、本学はこれらの取り組みに、今後も積極的に参加していきます。

大和リース株式会社との連携事業のきっかけは、2023年3月、BiVi 二条の管理運営を行なう同社からの連絡であった。そこでは、二条キャンパス事務課と一緒に、同施設のリニューアルや周辺の整備計画において、学生の意見を参考にするなどの連携の可能性について協議を行なった。隣接の二条キャンパスを利用する保健医療技術学部の学生には、紫野キャンパスで展開しているような社会連携・地域貢献、まちづくりの取り組みへの参加を紹介する事例が少なかったこともあり、貴重な地域参画の機会提供ができるよう、引き続き協議を行なうこととなった。

また、5月14日（日）に大宮交通公園で京都府北警察署が開催した啓発活動に「防犯啓発・立直り支援プロジェクト」が参加した際に、公園の管理を担当している方と挨拶する機会があり、ここも大和リース株式会社が管理運営を行なっていることを知った。同公園は、2021年4月に京都市と民間との連携によるPark-PFI方式でリニューアルされ、現在、地域住民を対象とした公益活動の実証実験が行なわれている。その一環として我々はもちろん、学生や教員による協力ができないかを提案。その延長上で実施の運びとなったのが、上述のコンサートであった。

京都市北区の大宮交通公園と紫野キャンパス、中京区のBiVi二条と二条キャンパスという、本学のキャンパスと隣接する施設でたまたま同時期にご縁をいただいたわけだが、先方の担当者がそれぞれ異なるため、今は別々に関係性の構築に努めている段階である。

また、いずれの取り組みも、一時的な地域への貢献や学生の体験活動だけで終わっては意味がない。地域の方々に本学へのよりいっそうの親しみを持っていただくと同様に、学生に対してもキャンパス周辺地域の活性化やまちづくりへの参画など、大学生生活を過ごす地域に継続的かつより深く関わることでの愛着形成にまでつなげたい。それができたならば、卒業後に学生時代を振り返るひととき、思い出とともにその地域がきっとよみがえることだろう。そして、また足を運んでみたいという思いや、自分と重ねてキャンパスライフがイメージしやすい大学を子どもの進学先に薦めたり、ふるさと納税といった制度を利用しての貢献など、多様な形でこの地域へ目を向けてもらえることが期待できないか。

このように、地域や地域に根付いた人々と佛教大学をどのようにつないでいくか。その中心に学生たちをおき、彼らが学生生活を過ごす地域への愛着を持ってもらえるような仕掛けを、大和リース株式会社をはじめとする外部の方々の協力を得て提供していきたい。

産学公はみな地域で生きていく者どうし。おそらく単独でできることは限られているからこそ、互いの強みを生かし、弱みを補い合いながら、持続的な連携に取り組んで行くことが、共存、協働のまちづくりの実現には不可欠であると考えます。



ぶつだいちびっこひろば活動報告について

保健医療技術学部 准教授 白井 はる奈

1. はじめに

2023年8月30日（水）、本学二条キャンパス1階エントランスにて、乳幼児や小学生を対象にした「ぶつだいちびっこひろば」を開催した。

学生企画まちづくりプロジェクト採択団体「NijoT」のメンバーや、社会連携センタープロジェクト「知ってる？パラスポーツの魅力」のメンバーをはじめとする作業療法学科の学生たちを中心に、授業や課題の合間をぬって企画、準備を行ってきた。当日は80組を超えるご家族に参加していただき、楽しい時間をともに過ごすことができた。当日の様子を写真とともに紹介する。



2. 活動概要

(1) 工作コーナー、魚釣りコーナー、ヨーヨー釣りコーナー、絵本コーナー

工作コーナーでは、乳幼児が楽しめ、夏らしいものを…と学生が考え、花火のうちわ作りを行なった。学生が事前にパーツを準備し、来場した子どもに合わせて作業の難易度を調整し、どんな年齢の子どもたちも「自分でできた!」と達成感を味わってもらえるようにサポートしていた。

2023年度は、毎年恒例の魚釣りコーナーに加え、学生が画用紙でヨーヨーを準備し、ヨーヨー釣りコーナーも企画した。

絵本コーナーでは、段ボールで作成した面展台に、大学図書室から借りた絵本を展示した。来場者にはマット上で自由に絵本を楽しんでいただき、学生による絵本の読み語りの時間も好評であった。





(2) ミニボッチャコーナー・射的コーナー

パラスポーツの1つであるボッチャを体験してもらえるコーナーと、射的コーナーを、「知ってる？パラスポーツの魅力」のメンバーが主となり運営した。ぶったんも登場し、子どもたちに大人気であった。



3. まとめ

昨年度に引き続き、2023年度も午前中の2時間だけの開催であったが、多くのご家族にご参加いただくことができ、二条キャンパスのエントランスには子どもたちと学生の笑顔があふれていた。

今回ぶつだいちびっこひろばを主催したNijoTのメンバーは、梅尾公園の清掃活動を地域の方と行なったり、二条駅かいわいまちづくり実行委員会主催の「梅尾公園ふれあいまつり」のステージに参加したり、「中京区民ふれあいまつり」では、子どもから高齢者まで楽しめるクリスマスリースとスノードームづくりのブースを運営したりと、様々な形で地域の方々との交流を行なっている。



イベントの企画、運営を通して、学生は社会人となるための多くの力が育まれている。地域の方々にも楽しい時間を過ごしていただくことができ、いい形で地域貢献ができていると感じている。

これからも地域貢献事業として、ちびっこひろばなどの取り組みを継続していきたい。

パラスポーツを身近に！車いすハンドボール・車いすバスケットボール体験会

社会連携課 宮本 泰子

1. 「Knocku 車いすハンドボール体験&観戦会 in 佛教大学」

5月20日、2022年度車いすハンドボール日本代表の選手やチームスタッフをはじめとする国内屈指のプレイヤーが集結し、国際ルールでの日本代表選手のエキシビジョンマッチや、障がいの有無にかかわらず誰でも車いすハンドボールを体験できる体験会が一般社団法人Knocku様により開催された。

本イベントは、本学社会連携センタープロジェクト「知ってる？パラスポーツの魅力～Do You Know the Power of Parasports?～」と車いすハンドボール日本代表の藤原芽花選手(教育学部臨床心理学科3年生)との交流の中で、車いすハンドボールという競技をもっとたくさんの方に知ってほしいという藤原選手の思いから実現した。イベント当日は、作業療法学科を中心とした学生メンバーおよびハンドボール部員もボランティアスタッフとして参加し、選手やチームスタッフをサポートし、実際に車いすに乗って競技の体験も行った。



エキシビジョンマッチでは、車いすを巧みに操る攻守の切り替えのスピード感や戦術的なパス回しに観客は釘付けに。日頃車いすハンドボールを観戦する機会が少なかった人も夢中になって競技を見つめ、ゴールが決まった時やナイスプレーの数々にたくさんの拍手や歓声が起こった。

本イベントを提案し、企画に携わってきた藤原選手は、プレイヤーとしての参加に加えて運営にも協力し、体験会では講師を務めつつ、参加者一人ひとりに明るく声をかけながら積極的に交流を図った。「多くの方が参加してくれた今回のイベントをきっかけに、これからもパラスポーツに関わる面白いことを佛教大学で開催したい」と、パラスポーツの認知度向上に向けた今後の抱負を語ってくれた。

イベント終了後にお話をするなかで、一般社団法人Knockuの関係者様の「車いす競技のイベント開催は、様々な理由で施設側から断られることが多い。佛教大学さんは、確かに体育館までエレベーターは1つしかなく階段も急であるが、実施にいたるまで人とのバリアは全くなかった。その点がパラスポーツをする者として有難かった」という言葉が非常に印象的であった。



2. 車いすバスケットボール体験会

1月17日・2月26日の2回にわたり、藤原選手と社会連携センタープロジェクト「知ってる？パラスポーツの魅力 ～ Do You Know the Power of Parasports?～」との共同で、本学学生を対象とした車いすバスケットボール体験会を開催した。「NPO 法人パラキャン」にて、障がい者アスリートとして学校や自治体等での訪問授業の講師を務める諸隈 有一氏の指導のもと、車いす操作やシュート練習、紅白戦などを行ない、各回参加した学生たちは、楽しみながらパラスポーツの魅力に触れた。

参加した学生は「パラスポーツは障がいのある方だけが行なうものだというイメージがあったが、障がいの有無や老若男女問わず楽しめるスポーツであることを身をもって感じた」と、パラスポーツに対しての意識を新たにしていた。

競技用車いすは、京都市障害者スポーツセンターのご協力のもと、紫野キャンパスにて使用させていただいている。学生たちが気軽にパラスポーツに触れ、性別、年齢、経験値、個性などがバラバラでも、誰でも楽しめ誰もが主役になれるよう、今後も定期的を開催する予定である。



「大学×産公連携ゼミ」の取り組み

社会連携課長 山下 仁男

大藪俊志社会連携センター長（社会学部教授）とともに、試行的に取り組んだ事業の一つが、「大学等講義×優良中小企業のゲストスピーカー」と、「大藪ゼミ×北区役所」である。

■ 「大学等講義×優良中小企業のゲストスピーカー」

12月1日（金）と8日（金）の2週連続で、3年生の学生たちがまさに直面している将来の進路選択に向けたキャリアを育む機会として、企業からゲストスピーカーをお招きして講演をいただいた。これは、近畿経済産業局が実施している、経済産業省のアワード・認定を受けた近畿地域の優良な中小企業を授業のゲストスピーカーとして紹介する取り組みを活用したものである。優良な中小企業の経営者等や若手社員から、学生に対して自社の魅力や地域で働く魅力を直接伝えることにより、地域に根ざした優良企業の存在を知るとともに、学生自身が「地域で働くこと」や「中小企業で働くこと」をイメージし、考える機会を創出することを目的としている。

開始時には興味がなさそうな様子や、集中できていない学生もいたが、講師の話題に引き込まれていく様子がありありと。受講後のアンケートにはたくさんのコメントが寄せられ、学生たちが多くの刺激を受けたことが伝わってきた。ここでは感想や印象に残ったフレーズなど、ごく一部を紹介する。

【12月1日（金） 株式会社 Credo Ship. 様】

- ・ 求められているのはアイデア、主体性（自分らしさ）
- ・ ブラック（企業）かどうかは自分で決める
- ・ もう一度しっかりと自分を見つめ直し、自分にとって大事なことは何かを考えようと思う
- ・ お金や時間の大切さを知った
- ・ 大企業が絶対ではないのだと思った
- ・ 自分の良さや、自分らしさを発揮できるような職業に就きたいと強く思った



【12月8日（金） 株式会社リーフ・パブリケーションズ様】

- ・ 働く、遊ぶ、学ぶのサイクルが印象に残った
- ・ 観光産業について興味がわいた
- ・ 行動するのは重要である！
- ・ 2年先を想像（創造）する、人が集まる仕組みづくり、女性目線からの商品開発
- ・ インスピレーションも大切
- ・ 日本の今後の産業に不安があったが、なんとなく今後の方向性がわかった



■ 「大藪ゼミ×北区役所」

1月19日（金）には、京都市北区役所地域力推進室のスタッフを講師としてお招きし、出前トークとして講演をいただいた。

テーマは「公務員・行政について学ぶ」とし、①講師の経歴、公務員になったきっかけ ②公務員の仕事とは？ ③公務員が語る求められる公務員像 ④北区の身近な公共政策と課題 といった内容を自身の経験談やライフスタイルの変化等を例にあげながら、わかりやすく説明いただいた。公務員志望者にとっては、それまで漠然としたイメージでしかない行政組織や公務員の仕事内容などに関して、具体的なイメージを持つ良い機会となったに違いない。終了後は、公務員試験への取り組み方を熱心に質問する様子も見られた。

なお、京都市北区役所とは日ごろより包括連携協定に基づき、各種事業の協力関係にある。しかも今年度は、別掲の京都中小企業家同友会北支部例会をはじめ、北区長には何度も本学に足をお運びいただいたり、顔を合わせる機会にはお声がけをいただくなど、とても良好な関係が築けている。今回の講師派遣も日常業務繁忙のなか調整していただいたわけであるが、講師のスタッフの方とも様々な事業で何度も顔を合わせ、世間話を含めた交流があったればこそその実現だった。

これらの連携事業は、対外関係上の実績作りもあるが、当課や社会連携センターがコーディネートできる事業の一つとして、学内向けのPR活動の一つでもあった（とはいえ、まだまだ認知はほとんどなされていないのだが…）。

実施にあたっては、外部機関はもちろんながら、冒頭に記載したとおり、大藪センター長の多大な協力がなければ実現できなかったことは言うまでもない。様々な連携活動は、内も外も、縦にも横にも、人と人とのつながりが基盤であることを、改めて実感した一年であった。

学生企画まちづくりプロジェクト

社会連携課 田畑 瑛士

学生企画まちづくりプロジェクトは、本学学生が地域と協働して主体的にまちづくりを企画・推進する活動を支援することを目的とし、学生の主体性や問題意識を養い、「佛教大学人」（社会と人、人と人をつなぐための橋渡しとなり活躍する素晴らしい人材）を社会へ多く輩出することを目指す制度である。2023年度採択された7団体の活動内容について、記録写真とともに報告する。

1. 寝屋川スポーツ魅力発信プロジェクト

構成員：10名

支援教員：大東 貢生（社会学部）

活動地域：大阪府寝屋川市

活動内容：寝屋川市スポーツ推進委員の活動（定例会および各種行事）に参加し、スポーツイベントの運営などを通して、生涯スポーツ社会の形成に向けた取り組みを行なった。7月29日（土）にカローリング大会、9月23日（土）に市民ウォーキング、10月15日（日）には市民運動会を運営、参加した。市民運動会においては新競技提案も行なった。あらゆる面から生涯スポーツ社会の形成やスポーツによる地域活性化に向けた取り組みを行なった。



2. 京うちわによる京都市上京区の地域活性化プロジェクト

構成員：4名

支援教員：大谷 栄一（社会学部）

活動地域：京都市上京区

活動内容：「京うちわ」をターゲットとして取り上げるにあたり、知識の土台を構築するため、8月23日（水）に京うちわの老舗である株式会社阿以波の代表取締役である饗庭智之氏へインタビューを行なった。また、対象地域として取り上げた京都市上京区の「千本商店街・朱雀大路の街」では、商店街が持つ課題を把握するべく、6月26日（月）と10月19日（木）に商店街を訪れ、商店街の事務局長である田村成史氏へのインタビューを行なった。以上を踏まえ、京うちわを紹介する催し「クイズを解いて京うちわを知ろう！！」を10月29日（日）に千本商店街・朱雀大路の街で開催された「千本100円商店街」内で実施し、来訪者の方に京うちわの魅力発信を行なった。



3. 京版画のワークショップによる京都市北区の地域活性化プロジェクト

構成員：6名

支援教員：大谷 栄一（社会学部）

活動地域：京都市北区

活動内容：伝統工芸の認知拡大を目指し、京版画をターゲットとした。京版画の工房である有限会社竹笹堂と仏教書専門の出版と書店を手掛ける株式会社法藏館へのインタビュー調査を経て、京版画を利用した体験型のワークショップ（以下WS）の実施を提案し、会場を佛教大学の礼拝堂に選定することで、同時に京都市北区の地域活性化も目指した。10月9日（月・祝）に「京版画にふれよう」と題したWSを実施。竹笹堂の竹中健司氏のご指導のもと、江戸・明治時代に作られた版木を使った、木版画の摺り体験を行なった。



4. 京提燈による京都市下京区地域活性化プロジェクト

構成員：6名

支援教員：大谷 栄一（社会学部）

活動地域：京都市下京区

活動内容：京提灯と下京区の活性化を目的とした活動をするにあたり、京都府立京都学・歴彩館に行き、先行研究を行なった。先行研究で得た情報を元に、7月27日（木）に下京区総合庁舎、9月6日（水）に高橋提灯株式会社に赴き、インタビュー調査を行なった。また、10月13日（金）、14日（土）には、下京区で行なわれたキャンドルナイト梅小路「伝燈祭」にてフィールドワークを行なった。



5. わくわく研究室

構成員：16名

支援教員：平田 豊誠（教育学部）

活動地域：京都市北区、上京区

活動内容：京都市内の楽只児童館、仁和小学校PTAと連携し、小学生を対象として科学実験教室を行なった。実験内容は毎回異なり、磁性を持たせたスライムやゴムを動力とした紙飛行機発射機など、工夫を凝らして行なった。また、本番前には必ず予備実験を行ない、安全性の確認や手順の共有をすることで安全面にも配慮した。



6. 餅でつなぐ上京の絆

構成員：10名

支援教員：水上 象吾（社会学部）

活動地域：北野商店街

活動内容：連携協定先の一つである北野商店街の活性化を目指し、餅つきを通じて多世代交流ができる場として、北野商店街のハロウィンイベント「きたのハロウィン 2023」にて餅つきイベントを開催した。附属こども園から杵臼など餅つきに必要な道具を拝借し、試作会は餅と白玉で各1回ずつ実施した。ポスター制作、お面制作などイベントに向けた準備を進め、10月29日（日）にイベントを開催、多くの子どもたちが参加した。



7. 二条ワクワクプロジェクト

構成員：12名

支援教員：白井 はる奈（保健医療技術学部）

活動地域：二条キャンパス周辺地域

活動内容：二条キャンパス周辺を拠点として、乳幼児から高齢者の方まで参加できるイベントやお祭りに参加した。7月30日（日）にBiVi二条前で乳幼児に向けて絵本の読み聞かせや楽器の演奏を披露した。また、8月30日（水）にはちびっこひろばの運営や企画を行ない、沢山の方に参加いただいた。10月29日（日）には中京区民ふれあいまつりにブースを出展した。



佛教大学ボランティア支援金制度

社会連携課 田畑 瑛士

佛教大学ボランティア支援金制度は、本学学生が広く社会貢献（ボランティア）活動に取り組むことを目的とし、学生の主体性や問題意識を養い、「佛教大学人」（社会と人、人と人とを結びつけるための橋渡しとなり活躍する素晴らしい人材）を社会へ多く輩出することを目指す制度である。2023 度採択された 2 団体の活動内容について、記録写真とともに報告する。

1. 佛教大学高齢者サロンプロジェクト

構 成 員：11 名

活動地域：京都市

活動内容：京都府警の OB・OG が代表を務める「一般社団法人 つなぎ」（京都市左京区松ヶ崎堀町）や、「京都高齢者生協くらしコープ」（京都市北区紫野東野町）の場所をお借りして高齢者サロンを開催し、スマホ教室を行なった。スマホ教室だけではなく、高齢者との交流をし、社会的孤立予防になるように努めた。また、「公益社団法人 認知症の人と家族の会」などが主催した認知症啓発活動イベントへの協力依頼があったため、参加した。主に啓発活動ブースの支援を担当した。



2. 京都府若年性認知症当事者交流会～エンジョイ e スポーツ～

構 成 員：37 名

活動地域：京都府

活動内容：「e スポーツをやってみたい！」という若年性認知症当事者の声をきっかけに、京都府こころのケアセンターと共催で、若年性認知症当事者と学生との交流会を企画・実施した。7 月から企画や打ち合わせを開始し、当事者と交流を深めながら準備を進めた。12 月 17 日（日）の交流会では、「サンガスタジアム by KYOCERA」e スポーツゾーンにて、若年性認知症当事者とボランティア学生とが一緒にチームを組み、「ロケットリーグ」、「ぷよぷよ」などを楽しんだ。当日は認知症当事者 9 名、当事者家族 8 名が参加した。



3. 委託事業

2023年度二条駅地域安全ネットワーク活動報告

社会学部 准教授 山本 奈生

1. 二条駅地域安全ネットワークの概要

二条駅地域安全ネットワークは、京都市中京区役所地域力推進室が所管する施策であり、2014年に発足して現在まで活動が継続されている。主たる目的は地域防災および防犯（交通安全を含む）の両面において、広く安全かつ安心に住まうことのできる地域づくりを推進し、地元自治会、当該地域における民間事業者、大学機関、地方自治体が横断的に住民参加型の事業として展開することにあるといえる。活動の具体的な範囲として言えば、JR二条駅を中心として見た時、学区としては朱雀第一、第五、第六学区が交差する範囲にあり、より広く見れば朱雀第二、第四学区を含む地域である。

本ネットワークは、こうした街区において行政としては中京区役所（二条城事務所を含む）、同消防署、同警察署の三者が参与し、住民としては上述各学区の自治会が、また事業者として三条会商店街、JR二条駅、BiVi二条、近隣スーパーやコンビニエンスストア、駐輪場管理者などが参与する、横断の性質を有するものである。本学は二条キャンパスとの関係性があり、また有識者として教員の参与（本年度座長：山本奈生、協力教員として保健医療技術学部の白井はる奈准教授）が継続されてきた。

*本概要は定期報告書という性質上、昨年度の自身が記した同概要欄に依拠している。

2. 本年度の活動と、次年度の展望

2023年度は、2000年度より続いてきたコロナ対応を念頭に置き、本学学生や地域住民の参加する場での活動は十分に行なえなかった。6月26日に中京区役所地域力推進室と対面での打ち合わせを行なった。7月30日に、二条駅西に位置する商業施設「BiVi二条」前にて、「二条駅かわい夏祭り」での広報活動を実施した。さらに、10月29日の「中京区民ふれあいまつり2023」（於：中京中学校）にてチラシ配布が行なわれた。コロナ以前からの継続的な取り組みとして二条駅前に設置された花壇（プランター）の整備も行なわれている。

一方で、本年度はこのように形式的な取り組みが多く、コロナ感染症の行政法的な対応が変わった秋以降にも本格的な活動を実施することはできなかった。新型感染症流行により、実質的に中断された活動を再開することの難しさは、多くの地方自治体で見られる事柄かもしれない。ある程度、一つの団体や機関の自主性による運営や取り組み（例えば、私が担当する佛教大学FAST）であれば、当該団体の内部的な合意が得られれば活動再開への障壁は少ないのだが、町内会・自治会から、各種行政団体がかわっていた横断的取り組みの再開は、率直に言ってより難しさを感じるところがある。

大津市歴史博物館「大津市内古文書（膳所藩士文書）調査・整理業務」

歴史学部 教授 麓 慎一

はじめに

大津市の「令和5年度歴史文化魅力発見事業」における「歴史資料の整理調査事業」を実施した。本事業は「大津市歴史文化基本構想」によるもので、専門家や市民と連携して調査事業を実施することを主旨としている。専門家としては佛教大学歴史学部の貝英幸・麓慎一・寺嶋一根が参画し、歴史学部所属の大学院生・学生が整理作業・撮影・翻刻作業を実施した。

経過と概要

本事業は2023年6月から2024年2月まで実施した。この事業では主に膳所藩に関連する史料群（膳所藩士中村家文書）の整理および調査事業が中心であった。以下に経過と概要を示す。

- 1) 2023年3月29日に佛教大学において大津市歴史博物館の学芸員高橋大樹氏と本学原清治副学長・麓慎一歴史学部長らをはじめとする関係者と本事業についての協議を実施し、概ね実施する方向で合意ができた。
- 2) 事務的な準備が完了し、同年5月18日に歴史学部において本事業の説明会を開催し、多数の大学院生および学生の募集があった。その後、日程調整を実施した。
- 3) 同年6月から10月までは史料の整理（掃除・分類・箱詰）を中心に事業を実施した。
- 4) 同年10月から暫時、史料の撮影を行なった。
- 5) 2024年2月には佛教大学歴史学部において翻刻作業を実施した。この翻刻した史料については、その一部をサンプルとして附帯する。

当該史料群の内容は「歴代当主の履歴を書き上げた由緒書、藩の職制・職掌が明らかになる勤方覚書、典籍、書画など」である。すでに翻刻作業を実施した史料からは以下の点が解明できた。

第一に、膳所藩士中村家の出自について、藩主本多家の三河国西尾（現・愛知県西尾市）統治時代からの家臣であることが明らかになった。

第二に、膳所藩政関係史料が一部を除き、ほとんどが滅失しているなかで、歴代当主の役職就任の履歴に



より、藩の職制や役職就任ルート、藩士の格式など藩政の実態が明らかになった。

第三に、和宮上洛・京都警衛・将軍上洛などの幕末政治史の重要な局面で譜代の膳所藩が果たした政治的役割と藩の最幕末における職制改革の一端が明らかになった。

以上の点の解明が本年度の成果である。

6) 2024年2月23日を事業の書類等の最終提出日とし、本年度の事業を終了した。

おわりに

本活動によって大津市の「令和5年度歴史文化魅力発見事業」の主旨である「歴史文化の価値の共有化」を実現し、未指定文化財の継承に寄与することができた。また、佛教大学歴史学部の大学院生および学生に歴史学習施設における活動の実態を学ばせることができ、さらには史料の整理・撮影・翻刻という実務を経験させることができた。

本整理調査事業の委託を依頼してくだった大津市歴史博物館の関係者に感謝申し上げます。

【中村家文書】 (表紙)	
由緒書	一
本國三河生國近江 中村庄司正理(花押) 当寅貳拾七歳	
一 元祖	中村吉左衛門第
梅香院様御代、慶長年中兄吉左衛門、於三州西 尾被 召出候二付、同居罷在候處、吉左衛門方相應之御 奉公奉願候二依而、慶長十八丑年金子拾両、式人扶持 被下置被 召出候、大坂御陣之節、吉左衛門江御預之 組小頭二仕召連申度段、吉左衛門方奉願候處、兄弟願 之儀二付、御聽届被遊候段被 仰出、則大坂御出 陣之節、御供仕於陣中吉左衛門儀相働候内、鉄砲 二中り怪我仕候節茂、組中差配仕相働 御賞 美被遊候旨、並悴市平儀茂、父二随從御供仕 敵ト組討等仕御目二留り、於其場市平与蒙 御意候由申伝候、先祖之儀者本家当時中村 単太方書上候通二御座候	
元和三巳年膳所江御所替御供仕 専光院様御代、同七酉年又西尾江御供仕、夫方 勢州亀山江御供仕候、正保元申年正月於亀山 病死仕候	
一 二代	右左衛門実子初名市平 中村与治右衛門
専光院様御代、正保元申年三月、父為跡目拾 石、式人扶持被下置、父之通相働御様被 仰付候 慶安四卯年膳所江(御所替之節)御供仕候、万治元戌年七 月病死仕候	
初名十太夫	

4. 連携事業の取り組み

①モデルフォレスト運動

社会連携課 宮本 泰子

【モデルフォレストについて】

モデルフォレストとは、1992年の世界地球サミットの際にカナダが提唱した持続可能な地域づくりの実践活動のことで、森林保全、森林生態系における健全性の維持と回復、景観保護や、観光を含めた経済活動の増進等、森林を持続可能な方法で守り育てることを目的としている。

京都府では2006年4月に「京都府豊かな緑を守る条例」を施行し、世界に広がる森林再生事業が提唱され、この取り組みを進めており、同年11月には、日本で初めて、この運動の推進主体となる『公益社団法人京都モデルフォレスト協会』が設立。以降、府民ぐるみで活動に取り組んでいる。



【佛教大学のモデルフォレスト】

本学は、南丹市美山町宮脇地区（みやわき Billy：地元のボランティア団体）・三共精機株式会社・公益社団法人京都モデルフォレスト協会・京都府・南丹市と2008年2月に連携協定を締結し、美山町宮脇地区「つながりの森」でのモデルフォレスト運動に参画している。



【「つながりの森」について】

京都府南丹市美山町宮脇地区にある205haの山林で、ここでの活動のコンセプトは「つながりの森づくり」。日ごろ自然に触れることの少ない大学や企業の関係者が、地元の美山町や京都府、南丹市の方々と共に活動する機会をとおして、

- ・「人と自然」とのつながり
- ・「人と人」とのつながり
- ・植えた木の成長と同時に、植えた人の未来へつながる「現在と未来」のつながり

を大切にしたいと願い、「つながりの森」と名付けられた。

そのため、ここでの活動では、植林や間伐、下草刈り、遊歩道の整備といった作業のほかに、季節に応じてバーベキューや炊さん、紅葉狩りなどを参加者全員で楽しんでいる。



【2023年度の活動】

2023年度は、モデルフォレスト運動を開始した2008年に設置した、活動の舞台である「つながりの森」の看板リニューアルを中心に取り組んだ。

第1回の活動は、6月17日に実施。真夏を思わせる暑さの中、看板作成班、道相神社裏山の間伐班、お昼のバーベキューに向けた調理班に分かれて作業を行なった。看板は、みやわき Billy 関係者の方が、美山町の自然や季節の移り変わりをイメージしてデザイン。これを下書きした木材に、参加者で色付けを行なった。参加者全員が少しずつ色を加えることにより、「人と自然」や「人と人」とのつながりをコンセプトとした本活動を象徴するものができあがった。



第2回の活動は、紅葉深まる秋景色の中、10月28日に実施。第1回の活動で彩色を行なったのち、本学書道部の協力で「つながりの森」の文字が入った看板がお披露目されると、参加者からは拍手があがった。参加者みんなで力を合わせて「つながりの森」に設置した。看板に施された穴にボルトを通すのに苦労しながら、根気よく1時間以上かけて看板を支柱に取り付け、同時に、看板を立てるための穴を、大きな石や木の根を取り除きながら交代で掘り進めた。

作業で汗を流した後のバーベキューでは、「鷹峯地域活性化プロジェクト」で収穫した氷室産の無農薬のお米が提供され、終えたばかりの作業の感想など会話が広がった。



第3回は、3月9日、雪の降る美山町にて活動を実施。現地に近づくにつれてバスの窓から見える景色が白くなり、雪も大粒に。残念ながら三共精機株式会社の皆さんは降雪を考慮し欠席となったが、予定どおり椎茸の菌打ちと釜での炊飯を実施することができた。特に菌打ちはほとんどの参加者にとって初めての体験で、地元の方々のレクチャーを受けながら楽しんで取り組んだ。原木となるナラの木を作業場まで運び込み、菌打ちを体験。菌を打ち付けたほだ木は、仮伏せ、本伏せを行い、菌糸を十分に行き渡らせた後、1～2年かけてようやく椎茸が収穫できる。また、皆で協力しながら薪を焚き、交代で火の番を行ないながら釜での炊飯を行ない、作業の後は美山町の平飼卵を使った卵かけご飯をいただいた。

作業場からバスに戻る際、道路を挟んで「つながりの森」を確認することができた。第2回の活動で設置したカラフルな看板が遠くからでもよく見え、改めて毎度の活動で「つながり」が生まれていることが実感できた。



【今後の活動について】

2023年度の活動は、「つながりの森」の新しい看板の設置を中心に進めてきた。2008年に設置し、約15年間その役目を全うした看板を撤去する際、学生たちは本学のモデルフォレスト運動の歴史を感じ取ってくれたように思う。新しい看板の裏側には、参加者の名前をそれぞれ記した。「つながりの森」で生まれたご縁が、時を超えてさらなるつながりに発展するよう、2024年度以降も活動内容の工夫を行なっていきたいと思う。



②第9回浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会

社会連携課長 山下 仁男

2023年12月2日（土）、東海学園大学名古屋キャンパスにて、「第9回浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会」が開催された。

「大学と地域連携」をテーマとした本報告会は、浄土宗宗門関係大学（東海学園大学、京都華頂大学・華頂短期大学、京都文教大学・京都文教短期大学、佛教大学）の学生が地域連携に関する取り組みを発表し合い、交流を持つことをとおして、大学の社会貢献のあり方、地域×大学のコラボレーションのさらなる可能性を探ることを目的としている。

本学からは、社会学部大谷栄一教授のゼミより、「ワークショップで広げる京版画の魅力 - 伝統文化の継承と京都市北区のコミュニティ活性化を目指して - 」と題し、学生グループでの活動報告とパネルディスカッションへの参加を行なった。

この取り組みは、社会連携センター「学生企画まちづくりプロジェクト」にも採択された事業で、第1部の活動報告では、伝統工芸である京版画に着目した経緯や京都市北区の特性を活かした課題解決方法等について紹介し、伝統工芸品を守っていく方法として「ワークショップ」の実施が効果的であるという考察を発表した。また、実際に10月に紫野キャンパス礼拝堂にて実施した地域の子どもたちを対象とした「京版画にふれよう」ワークショップの様子も紹介された。



第2部のパネルディスカッションでは、各校の代表者が、それぞれの取り組みにおいて「苦労した点、工夫した点」などを、コーディネーターとの対話形式で発表。本学からは、ワークショップの実施にあたり、講師との打ち合わせや版木の用意、参加者募集での苦労や、参加者に楽しく版画を体験してもらうための工夫等を中心に発表していた。

本事業の始まりは、浄土宗社会福祉推進事務局（当時）の地域貢献への取り組みの一つとして発案された。途中、コロナ禍による中断をはさんだものの、幹事校・会場校を持ち回りながら実施されてきた。

今回の開催準備と併せて、本事業のあり方、継続についても協議が行なわれた。参加校が直接顔を合わせた第9回の開催当日に改めて協議を持ち、従来からの「浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会」としての

開催を閉じる方向性が確認された。しかし、関係校が実際に顔を合わせる数少ない交流の場の一つであり、これまでの経緯も踏まえ、このつながりを大切にしたいという思いも改めて共有された。すぐの実現は困難かもしれないが、できれば学生たちが実際に地域の方々や子どもたちと関わり合える場面を設定し、その中でお互いの活動を体験し合うなど、よりいっそうの交流を深められる機会として、発展的な関係を保ちながらこのご縁が続いて行くことを期待している。

【第9回浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会】

テーマ：大学と地域連携

開催日：2023年12月2日（土）13：30～16：30

場 所：東海学園大学名古屋キャンパス 3号館1階311大講義室

主 催：京都華頂大学・華頂短期大学、京都文教大学・京都文教短期大学、
東海学園大学、佛教大学

第1部：取組報告

1. 東海学園大学

〔報告①〕みよしコミュニティニュース ～学生の地域メディア活動～

〔報告②〕第19回あさひ健康フェスタとの連携の取組み

〔報告③〕SDGs 未来型創造フォーラム2023との連携の取組み

2. 京都華頂大学・華頂短期大学

〔報告④〕綾傘鉾保存会と京都華頂大学・華頂短期大学との連携

～祇園祭での学生ボランティア～

3. 京都文教大学・京都文教短期大学

〔報告⑤〕近隣地域の経営者と「地域に愛される会社づくり」を考える

4. 佛教大学

〔報告⑥〕ワークショップで広げる京版画の魅力

～伝統文化の継承と京都市北区のコミュニティ活性化を目指して～

第2部：パネルディスカッション



加東国公立大学間協定入学の社会教育の発展

大学と地域連携

第1回「SDGsと社会連携」をテーマとした講演会を開催します

日時：令和5年12月2日(土)

13:30～16:30(受付13:00～)

会場：東海学園大学名古屋キャンパス

3号館1階311大講義室

入場無料・事前申込不要(どなたにもご参加頂けます)

プログラム

第1部 「SDGs」 講演会(講師・権威者等)
「SDGs」 権威者
東海学園大学
京都府立大学・東山学院大学
京都文教大学・京都国際大学
筑波大学

第2部 「SDGs」 パネルディスカッション
「SDGs」 講演・問答の報告

地下鉄有楽町線「京」駅下車
「有」駅より徒歩15分。
または
「有」駅で市バスに乗り換え
「学園南住宅」下車、徒歩約3分。

各大学の取組など

東海学園大学
【報告1】ふとしコミュニティニューズ学生の地域メディア活動
人文部のふとしでは、2013年から三好キャンパスのある愛知県みよし市と地域のラジオ局である「エフエムとよた」と連携し、学生によるラジオ生放送を行っている。事前に取材、番組編成、企画制作の準備を進め、放送当日はレポーターとして番組に参加する。番組コーナーは10年を記念、地域に浸透し高く評価されている、地域メディア活動に取り組む学生の取組について報告します。

【報告2】第19回あさひ健康フェスタとの連携の取組
愛知県豊田市は、「健康は市民すべての共通の願いである」という考えに基づき、平成15年から「健康づくり街づくり」に取り組みしており、健康に関する啓発活動のイベント「あさひ健康フェスタ」を毎年開催している。健康推進学部はそのイベントに参加し、「とうがく健康測定コーナー」を設け「骨密度測定」「足指筋力測定」「ヘモグロビン測定」を行った。この取組について報告します。

【報告3】SDGs 将来世代フォーラム2023との連携の取組
2022年からアサヒ飲料株式会社主催でWell-beingな未来を考える場の創出を目的とした、将来世代の育成と家庭・未来社会の発展に向けた「SDGs 将来世代フォーラム」が開催されている。健康推進学部は今年に引続きフォーラムに参加し、東海学園大学のSDGsの取組みや企業とのつながり商品の提示を行った。また、「とうがく健康測定コーナー」では「骨密度測定」「body測定」を行った。この取組について報告します。

京都府立大学・京都国際大学
【報告4】健康推進委員会と京都府立大学・東山学院大学との連携～視察での学生ボランティア～
2021年から始めている視察(原形)で実行する視察団の保存会との連携、「社会参加とボランティア」の授業で視察団でのボランティアを履修した受講生は事前学習を経て足跡けり野の貸入作業、西山公園の運営など視察団の手伝い(掃除や食、更衣など)を行う。京都の文化と伝統を受け継ぐ大団圓と絆のひととの交流からの学びを報告します。

京都文教大学・京都文教短期大学
【報告5】近隣地域の経営者と「地域に愛される会社づくり」を考える
大学の学内インターンシップが京都中小企業同友会足尾支部と連携しワークショップを中心としたイベントの企画運営を行った。学生と経営者が近隣地域の課題を考え、その状況とベースとして協賛の会社作りを考えました。この場が学生にどのような気づきをもたらしたのか、学内インターンシップがどのように育ったのか、経営者は地域での取り組みに何を思うのか報告します。

筑波大学
【報告6】ワークショップで広げる衣袋町の魅力
—伝統文化の継承と京都府北区のコミュニティ活性化を目的として—
私たちは、伝統文化の継承と京都府北区のコミュニティ活性化を目的として、京都の伝統産業である京製菓に注目しました。京製菓の工芸や京都府北区の地域的個性について調査することによって、京製菓の技術の継承や伝統産業の魅力発信・認知とともに、京製菓を用いて、京都府北区の地域交流への若者世代の積極的な参加促進に役立つ取組を行うことが本報告の目的である。筑波大学で実施した京製菓のワークショップの様子も併せて報告します。

③京都市立北総合支援学校との連携事業

社会連携課長 山下 仁男

本年報が刊行される時、私は別の部署に配属されている。その異動を知り最初に頭に浮かんだのが、北総合支援学校（以下、北総合）の皆さんの顔と本事業の行方のことだった。

2023年1月に初めての連携事業を実施(それらの経緯は本年報第9号／2023年6月発行を参照ください)。4月以降はさらに定期的、継続的な取り組みをめざし、年度当初より北総合の先生方とキャンパスでの下見をはじめ、活動内容の協議を進めた。

北総合の高等部の皆さんは、ワークスタディという活動で、クラフト、陶工、織染、食品加工、メンテナンス、役割・創作などの班ごとに「働く力」「生活する力」を高めることに取り組んでいる。このうち、今年度の本学との連携事業は、紫野キャンパス隣接のサテライト施設楽只館で日頃の活動を行なう、環境デザイン班（清掃活動）、楽只館班（ワーク製品販売）、製品開発班（今後の製品開発に向けたアンケートやチラシ配布）の皆さんが中心となり、それぞれ3回にわたって本学に来訪した。

■ 1回目（2023年6月26日・27日）

6月26日（月）には環境デザイン班が5号館5階フロア7教室での清掃に取り組んだ。まずは社会連携課の事務所に代表の生徒がやってきて、大きな声で「北総合支援学校から来ました。よろしくお願いします！」と挨拶。こちらも負けじと笑顔で挨拶を返す。

活動では「ここ拭けてへんで！」などなど生徒同士のやりとりもあり、机や窓、床の拭き掃除、椅子の整頓などを行なった。一緒に参加した学生は、終わりの挨拶で「皆さんと掃除した教室を今まで以上にきれいに使います」と感想を述べた。

翌、27日（火）は楽只館班と製品開発班が来訪。ワーク製品の販売では、お客さんへの声かけや商品の説明、レジ打ちなどを役割分担しながら協力して取り組んだ。アンケート班は調査に加え、通行する学生や教職員へのチラシ配りも行なった。焼菓子やクラフト製品、お皿、ミニレターセットなど生徒の皆さんの心がこもった品は見事に完売した。



■ 2回目（2023年9月25日・26日）

9月25日（月）には清掃活動、26日（火）にはワーク製品の販売活動を実施。

学生の多くが利用する中庭での清掃活動では、雑巾がすぐに真っ黒になるほど埃をかぶっていた机や座席を全て拭き取り、側溝の掃除では、グレーチング（金属製の蓋）を外して、ブラシで擦り洗いをして溜まっ

ていた泥などを洗い流してくれた。多くの学生の目に触れる場所での初めての活動でもあり、緊張感と暑さのなかではあったが、みんな熱心に頑張ってくれた。美しくなった中庭で、昼休みにはさっそく多くの学生たちが歓談していた。

販売活動ではつまみ細工の花のゴム、小皿やペンスタンド等の新しいデザインの製品も並んだ。焼菓子は相変わらずの大人気。また、今回、製品開発の生徒作成のおしゃれなチラシも登場。「KITAKITA MARCHE (きたきたまるしえ)」の名称が学内に定着することを願う。



■ 3回目 (2023年11月27日・28日)

11月27日(月)に清掃、28日(火)はワーク製品の販売等を実施。

清掃活動では、中庭や1号館掲示板前などの拭き掃除。9月の清掃活動のおかげで座席やテーブルはかなりきれいな状態だったが、今回もやっぱり最後は雑巾がまっ黒。前日の雨の水滴を拭き取ったり、天板の隙間に雑巾を差し入れて汚れやゴミを取ってくれていた。

販売活動では、今回も新製品が導入され豊富なラインナップ。「ここのクッキーの大ファン!」と開店直後に訪れた人など、今回は史上最多の行列ができ、休む間もないほどの賑わいだった。「きたきたまるしえです、ぜひ見ていってください!」と呼び込み、買い物かごを渡し、商品説明、会計、袋詰め役割分担もかなり慣れた様子。同時にアンケート調査も実施。チラシを配りながら情報収集を行なった。

また、今回初めて医療的ケアを必要とする生徒さんが来訪し、きたきたまるしえの一員として販売活動に参加。併せて、担当の先生方による学校生活をまとめた展示やケアの実体験(パルスオキシメーター体験、スマイルでの吸引、シリンジ操作)コーナーを設け、日頃の活動の様子を動画で放映しながら、学生や教職員への紹介も行なった。



■ 交流会 (2023年11月17日)

高等部1年生8名と、社会連携センター学生ボランティア室スタッフの3名が、鷹陵館多目的ホールで交流会を行なった。自己紹介やボッチャ、学生へのインタビュー、ランチは食券を購入するところからの学食体験などで楽しい時間を過ごした。

※1月に予定していた別クラスでの交流会はインフルエンザのため中止に。とても残念。



■今後の展望

2023年度は、このように北総合の先生方や本学関係者の協力により、新たな連携の道筋をつけることができたといえる。2024年度には北総合の中央分校もスタートすることから、二条キャンパスでの事業や、さらに多くの学生たちとの交流が可能となる。これらを活用して、生徒の皆さんには大学、キャンパスを体験してもらい、できればいずれ、その様子は保護者の方々にもご覧いただけるようになれば、とも思う。学生に対しては、キャンパス内で特別支援学校の授業に参加できる学びの場としての認識を高めていきたい。そして、出会った皆が、まちなかで顔を合わせたらごく普通に挨拶が交わし合えるような関係に。

また、こういった取り組みが、京都市内はもとより全国の大学等で展開されていくことを願う。各大学が安心安全な拠点として地域に開放され、そのキャンパスという資源を活用して地域とともに学生を育てる。改めて、大学の「キャンパス力」を見直してみたい。

まとめにかえて、出会えた北総合の皆さんには、言葉で表せないほどの感謝を。特に、1月31日（水）楽只館での振り返りの会では、今年度でいちばんステキな時間をもらえた。

3月には本学卒業式の翌朝、たまたまバスで生徒の一人とぼったり出会った。いろいろ話しながら佛教大学前のバス停で一緒に降り、正門前の横断歩道を渡り始めると点滅。二人で歩道を駆け、せっかくなので楽只館の前まで行く。その場にいた生徒さんにも挨拶をしてから手を振って大学へ。そのあと、今年度いちばん朗らかな気持ちで出勤の打刻をした。

5. 社会連携センタープロジェクト

①防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト

社会学部 教授 作田 誠一郎

1. 本プロジェクトの概要

本プロジェクトは、警察や学校と連携して防犯の啓発活動を実施するとともに、非行少年等の青少年を対象とした立ち直り支援の実施を活動の中心に位置付けている。新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことともなって、感染防止に配慮しながらプロジェクトも流行以前のように実施が可能となった。

ところで、最新の『令和5年版犯罪白書』では、「非行少年と生育環境」が特集されている。そのなかで少年院の入院者のうち、男子は約4割、女子は約7割が保護者等からの被虐待経験を有していることや両親ともに同居している少年が36.1%にとどまっていることが報告されている。また下図は、同白書の少年院在院者および保護観察処分少年の保護者に対する調査として、「必要とする食料が買えなかった経験」および「必要とする衣服が買えなかった経験」を設問とした回答である。

この結果から非行少年の家庭環境において家計がひっ迫している状況にあることが読み取れる。本プロジェクトの非行少年の立ち直り支援においても、この社会的背景をしっかりと理解したうえで活動を進めていく必要がある。また防犯に関しては、インターネットを介した犯罪やいじめに青少年が被害者または加害者となることが推察



され、そのために取り組みが急務である。したがって本年度は、中学校においてインターネット犯罪の予防に関する授業の実施し、学生の企画をもとに地元の警察署と連携してプロジェクト活動に展開した。

2. 本年度の活動

本年度は、特に京都府北警察署と連携を図り、防犯および警察活動に関する広報も含めて活動を実施した。ここでは、活動の中から主に実施したプロジェクトについて紹介する。

(1) 中学校におけるインターネットの利用方法とインターネット犯罪の予防に関する授業の実施

本活動は、防犯啓発のなかでも現在注目されているインターネット犯罪に着目して、その被害が青少年におよばないように、また加害者にもならないように啓発することを目的としている。また対象となる中学生は、スマートフォンを持ち始める時期にあたり、その使用やトラブルに関しても学ぶ機会が必要である。学生が主体となって授業内容を考え、生徒指導主事の先生からアドバイスをいただきながら授業内容を精査していった。授業の当日は、生徒の反応もよく質問もあり学生の成長とともにインターネット犯罪の防犯活動という目的を達成することができた。



(2) 大宮交通公園における交通安全講習

2023年度より自転車利用者に乗車用のヘルメットの着用が努力義務として課されたことを周知するために、京都府警察音楽隊&カラーガード隊とともに市民への交通安全講習を実施した。各種自転車用ヘルメットをファッションショーのような形式で紹介し、自転車を常用している来場者にヘルメットの着用を推進する取り組みが北警察署交通課との連携で実施できた。



(3) 鷹峯交番と防犯・交通事故防止マップの作成

大学近隣の鷹峯交番より依頼があり、地元の小学校における防犯・交通事故防止活動を学生とともに実施した。小学校で交番に所属する警察官から危険な場所や交通事故について説明を受け、4つのグループに分かれてそれぞれの登下校ルートにそって防犯・交通事故防止マップ作成のための写真を撮影した。後日、この写真をもとに小学生にもわかりやすい登下校の地図を作成し、小学生が日頃から防犯や交通事故の予防を心掛けるように学校でマップを掲示している。



(4) 京都府北警察署におけるプレゼンテーション

北警察署において署長に対するプレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションに先立ち、学生をグループにわけて警察署の連携として何ができるのかを話し合い、そのなかで実施が可能ないくつかの案を該当する課（警務課、交通課、生活安全課、地域課）の課長に來学していただき、内容について精査した。後日、その結果を警察署長に対してプレゼンテーションした結果、ポスターの作成と小学校における警察の紹介の企画が採用された。



(5) 高齢者の運転免許自主返納促進ポスターおよび警察活動広報に係るポスターの作成

先の警察署長に対するプレゼンテーションで採用されたポスター作成を本年度は実施することになった。ポスターは、高齢者の運転免許自主返納促進ポスターと警察官の活動広報ポスターの作成である。高齢者の運転免許自主返納促進ポスターは、京都市北区役所や地域の回覧板を通じて掲示または配布し、警察官の活動広報ポスターは、小学校版、中学校版、高校版の3種類を作成して、各年代にそった内容となっている。そのために、各部署に所属する現役の警察官にインタビューを実施してポスターに反映させた。



3. 本プロジェクトの今後の展開

今年度は、感染症に対する予防を講じながら活発な活動が実施できた。来年度は、警察署長に対するプレゼンテーションの小学校企画を実施する予定である。また中学校におけるインターネットの利用方法とネット犯罪の予防に関する授業についても引き続き実施する。立ち直り支援については、非行少年の背景にある経済的な問題からもわかるように、幅広い青少年の学習支援や子ども食堂などの居場所支援を包括するような活動に展開することで、間接的なアプローチになるが立ち直り支援のひとつの方策として進めていければよいと考えている。

〈出典〉

『令和五年版犯罪白書』「第7編 非行少年と生育環境」359.

②鷹峯地域活性化プロジェクト

社会連携課長 山下 仁男

「かつて、鷹峯小学校に児童が入れるお風呂があった」

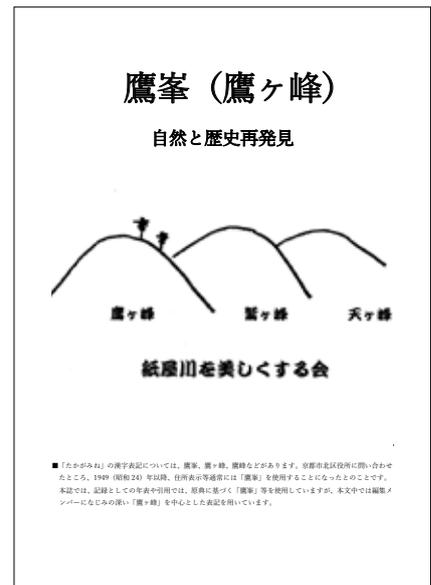
皆さん、こんな様子が想像できるでしょうか？これは鷹峯の地域の方々との集まりで聞いた小学校の思い出話の一つ。

「1949（昭和24）年か翌年あたり、小学校の校舎と講堂の間に風呂場ができあがり、5～6年生が入ることができた。市内の小学校でも珍しく、京都新聞に入浴している様子が写真入りで大きく報道され、皆、楽しく入っていた。窓を開け湯と水をかけあい、先生に怒られたものであった。当時、家に風呂がなく、もらい風呂とか、夏になるとタライで行水が普通。なので、お風呂に入れるのが楽しみだった」

このような話を集め、まとめることを少しずつ行なっている。これは長く鷹峯の地に暮らす方々が、改めて地域の歴史や文化を、次世代を生きる子どもや若い世代に伝えていきたいという取り組みについて、2023年夏にその協力を本学に持ちかけてきたことがきっかけである。地域の方々が大学にお見えになった際、その場に臨席した私と顔馴染みとなっていた方も多く、本プロジェクトの趣旨に合致する取り組みと位置付ければご協力できるのでは、と考えたところからスタートした企画だ。

お風呂だけでなく、小学校に子ども銀行があった話、鷹峯三山の一つ鷹ヶ峰の中腹にはいくつものマンガン採掘穴があり、作業中の発破をかける様子や運搬リフトを眺めていて先生に怒られたこと（昔の子どもはよく先生に怒られた??）、現場に勝手に入り込んでそのリフトやトロッコに乗って遊んでいたこと、戦後の進駐軍の話など、これらはほんの数例だが、とても興味深いエピソードがたくさんある。

この打ち合わせは月に一度鷹峯小学校で実施され、地域の史跡や寺社等を紹介する資料の整理は、年度内でひと区切りがついた。今後はそれらの活用や、形にしなければ消えていく人々の暮らしの思い出を少しずつでも集め、記録し紹介することで、特に子どもたちに現代との比較や、改めて自分たちが住む地域への興味や関心、学びのきっかけとなるようなものを提供する協力ができればと考える。



〔紙屋川清掃活動〕

上述の取り組みを進めるメンバーには、「紙屋川を美しくする会」として、以前から地域の歴史と自然、伝統文化を大切に、発信している方々もいる。私たちが紫野キャンパス大学の西を流れる紙屋川の清掃活動に可能な限り参加した。

紙屋川は天神川の上流部分で、平安時代、北野付近に居住する紙師が、紙屋院の管理のもとで朝廷御用の紙すきを行っていたことがその名の由来といわれている。当時は水量も多かったようだが、現在は鷹峯山中から市中を流れる小さな河川で、南区で桂川と合流している。「紙屋川を美しくする会」の皆さんは、自然の清流を取り戻すことを目的に、定期的な清掃活動や紙屋川沿いの植樹、紙屋川にホテルを呼び戻すための活動などを行なっている。今年度、本学からは以下の3回の清掃活動に参加し、近隣の観光施設や寺院をはじめ地域の方々と共に清掃活動を行なった。



- ・2023年4月22日(土) 10:00～11:00 職員1名(総勢約30名)
 - ・2023年6月23日(金) 10:00～11:00 学生5名、職員2名(総勢約30名)
 - ・2023年11月11日(土) 10:00～11:00 職員1名(総勢13名)
- そのほか、8月や3月実施分については他の行事との重複により欠席

〔氷室地区での農業、林業体験〕

紫野キャンパスから、千本通、鷹峯街道、京見峠から氷室別れを北上。約6kmのところにある集落。その田んぼの一部をお借りした稲作や、山での作業に取り組む方々のお手伝いなどを行なっている。活動の概略は既報をご参照いただくとして、2023年もよく通わせてもらった。

5月13日(土)の田植と9月23日(土)の稲刈には興味をもつ学生にも参加してもらった。田植では、昨年は一株2～3本ずつにしていた苗を、少し大胆に多めに植えていった。さらに翌週には、浮き苗や追加のさし苗を行ない、欲深い私は隙間を見つけては苗を植えた。そんなことを少々やり過ぎたもので、あとあと周囲の皆さんには、植え過ぎ(多過ぎ)、風が通らないし、病気が入るで、と何度も言われていた。

その後も毎週のように通っては、無心になって田んぼとにらめっこをしながら草取りを行なった。夏以降も水や天候に恵まれ、大きな病気も入らず、幸運にも豊作の秋を迎えることができた。籾で約200kg(精米すると約140kg)と昨年を大幅に上回る収穫量。未成熟米も少なく、食べてみると甘みが強く、とても美味。量も味も、昨年の比ではないお米が育っていた。

収穫したお米は、10月28日(土)に開催した第2回モデルフォレストでの昼食にも提供し、たまたま上手く羽釜で炊けたこともあり、参加者からは大好評を得られた。こんな些細なことからも、当センター内の複数のプロジェクトがつながっていくと、また面白い展開が生まれるのでは、と考えている。



5月13日 田植え



5月13日 田植え



5月21日



6月10日



7月2日



7月22日



8月5日



9月23日 稲刈り



9月23日 稲刈り



9月30日



9月30日 脱穀



10月7日



10月14日



11月4日



11月11日

③大学発進（信）プロジェクト

社会学部 講師 谷本 和也

京都市北区のコミュニティ FM 放送局である RADIO MIX KYOTO（NPO 法人コミュニティラジオ京都）様と連携してラジオ番組の企画・制作・放送を行なってきた。番組名は「ぶつ☆ラジ!」で、基本的には授業期間に30分番組を隔週で毎月2回放送することとしている。2020年度からRADIO MIX KYOTO様より年度毎の取り組みテーマ（お題）を与えられ、それに応えた番組内容を企画して放送することになっているが、今年度（2023年度）に提示されたお題は「地域企業の魅力を発信し大学と地域企業を結ぶ」というものである。

このお題に基づき、番組内容の企画構想を4月～6月にかけて行なうこととなった。その内容に沿った取材・内容づくりを7月～8月に、そして放送を9月から本格化させていくというスケジュールである。

今年度のぶつ☆ラジ!では毎回の放送でMC（パーソナリティ）2人、ミキサー1人を1組で設定し、合計3組で構成した。そして、チームごとに「地域企業の魅力を発信し大学と地域企業を結ぶ」をテーマに、北区・上京区の中でも興味をもち魅力的だと感じる企業に着目して、学生が取材しラジオを通して発信していく。

企画構想においては、RADIO MIX KYOTO 様から「大学生リスナーに向けた番組」というサブテーマをいただいたこともあり、学生たちの問題意識として「京都の大学に通う学生の就職時の府外への流出」という京都市特有の課題に焦点があてられた。そこから、放送地域である京都市北区、上京区の地元企業を取材し、事業の魅力だけでなくそこで働く人や経営者の方の想いを伝えること。経営者が自らの学生時代を回顧し、関連付けた学生に対するメッセージを発信する・・・という流れで企画が構成される。RADIO MIX KYOTO 様との企画会議を経て、番組内容としては企業の魅力発信を中心とする「なにしてはんの？地域企業!」と企業で働く人に焦点を当てた「教えてくれへん？学生時代!」の2つのメインコーナーをもつ30分番組の構成が決定した。およそ2カ月間で、課題を抽出し、公共の電波を活用してこれら課題を解決するために自分たちのできることを理解し、放送局の要望をクリアするまでの企画を生み出した学生たちの企画力には驚かされた。

取材・内容づくり（台本作成等）においては、取材対象となる企業の選定から学生が行なった。次に選定した企業に対して学生が電話やメール、SNSを駆使してアポイントメントを取り、取材交渉、スケジュール調整を行なう。当然すべての企業からよい返事をいただけるわけではなく、断られることも多数あったようだ。ただ、これにめげることなく学生たちはやり切った。自分たちの番組の意義について、どう伝えれば賛同が得られるか。根拠をもって論理的に説明することで納得を得る経験から、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力が育まれたと考える。結果以下の12の企業、組織から協力が得られた。（敬称略、放送順）

株式会社西浅、株式会社メディアインパクト、株式会社ロマンライフ、株式会社山中油店、浄土宗総本山



知恩院、株式会社満月、有限会社横山竹材店、LeapIn株式会社、よーじやグループ、株式会社フラットエージェンシー、株式会社 ONE DROP、株式会社鼓月

学生の心意気を感じ取っていただき、番組作りにご協力いただいた皆様にはここで改めて感謝の意を表したい。

放送そのものは、2023年9月から2024年2月まで行なった。放送の形態は取材時に録音したインタビュー音源を活用するインタビュータイプとゲストを放送局に迎えるゲストタイプがあり、双方とも生放送となる。特にゲストタイプは、ゲストの話の展開により予定していたスケジュール通りに番組が進まないことが多々あり、タイムマネジメントが非常に重要になる。その他にも突発的な機械トラブル等もあり、予定外での問題を解決するため臨機応変の対応が求められる。MC（パーソナリティ）担当者は回を重ねるごとに番組の進行に余裕をもち、ゲストとのトークをコントロールする力を身に付けていた。コミュニケーション能力を高め、突発的なインシデントに対応する態度を見せる学生に頼もしさを感じた。

これらが今年度の番組の概略である。付言することとして、各コーナーを支えるミキサー（機材）担当者らの活躍を忘れることはできない。今年度にミキサーを担当したのは3名であった。初めてラジオのスタジオの機器を触り、ゼロからそれに習熟して生放送をこなしていたが、これらにかかる努力は並大抵のことではない。また、インタビュー音源を調整・加工したりする技術も必要である。これらの複雑な作業は、昨年度から引き継いだ、将来のメンバーらが習熟しやすくするために作成いただいた緻密な作業マニュアルにより成り立つものであり、先輩にあたる学生たちの尽力とともにこれまで本プロジェクト携わっていただいた先生方のノウハウの蓄積に感謝の意を表したい。

またこれらの活動は、グローバル人材フォーラムが主催する最終報告会において発表する機会を得た。審査員からの講評の中で「京都の魅力的な企業を学生目線で発信・紹介するという我々が取り組む必要があるテーマを実践していただいた」という趣旨のお話を頂けたことは、ラジオを通して様々な難題に果敢に挑戦した学生たちの取り組みが報われたことへの喜びとともに、このような学びの場を提供することを早くから取り組み続けた先人の集う佛教大学を誇らしく感じた。

最後に、本プロジェクトはRADIO MIX KYOTO様のご協力なくしては実現しないものである。学生への教育に多大なるご助力いただいたことに加えて、緊張する学生たちを精神的に支えていただいた。今後も継続的なご助力を願うとともに、本年度の活動へのご協力に感謝の意を表したい。

以上のように、ぶつ☆ラジ!としての活動は比較的順調に、充実した形で行なうことができたと考えている。2024年度以降も学生の放送を通じて佛教大学の魅力が広く発信され続けることが期待される。



④知ってる？パラスポーツの魅力 ～ Do You Know the Power of Parasports ? ～

保健医療技術学部 准教授 白井 はる奈

1. はじめに

パラスポーツの魅力を発見し、広く伝えること、パラスポーツを通して共生社会を考えることを目的に、作業療学科の有志学生が主となり活動を行なっている。以下、2023年度の活動報告を行なう。

2. 活動概要

2023年度の主な活動内容は、(1) 梅尾公園でのモルック体験会、(2) ぶつだいちびっこひろばの開催、(3) 車いすバスケットボール体験会の開催、であった。

(1) 梅尾公園でのモルック体験会

二条キャンパスの近くにある梅尾公園で、週に2回、地域の高齢者の方々が健康体操を行なっている。その方々とモルックというユニバーサルスポーツと一緒に楽しみたい、という学生からの声を受け、2022年12月に第1回のモルック体験会を開催した。地域の方から、モルックをまたやりたいとのお声をいただき、第2回体験会を2023年6月に、第3回体験会を11月に開催した。介護予防推進センターの方も参加され、3チームに分かれて対戦した。歓声、笑い声、応援、ハイタッチ... 様々な声が自然に飛び交い、初めてプレイされる方もどんどん上達し、心も身体も動くとてもいい時間となった。



(2) ぶつだいちびっこひろば

本プロジェクトメンバーと、学生企画まちづくりプロジェクト採択団体「NijoT」で活動する作業療法学科学生が中心となり、二条キャンパス近辺の乳幼児、児童親子向けのイベントを企画し、2023年8月30日に「ぶつだいちびっこひろば」を開催した。パラスポーツのプロジェクトメンバーは、ミニボッチャコーナーと射的コーナーの企画・運営に携わった。当日は80組を超えるご家族にご参加いただき、楽しい時間をともに過ごすことができた。



(3) 車いすバスケットボール体験会

パラスリートであり、本学学生である藤原芽花さん（教育学部臨床心理学科3年）の発案により、本プロジェクトとの共同で、「車いすバスケットボール体験会」を2024年1月と2月に、紫野キャンパス体育館で開催した。「NPO 法人パラキャン」の諸隈有一氏のご指導のもと、車いす操作やシュート練習、紅白戦などを行ない、パラスポーツの魅力に触れ、学部を超えて楽しく交流することができた。

3. まとめ

2023年度も、学年縦断的に楽しく活動を行なうことができた。本プロジェクトは地域の方々との交流の機会にも繋がっている。パラスポーツは、障害の有無関係なく、誰もが楽しめるスポーツである。今後も、パラスポーツを通じて共生社会について考え、学内の学生だけでなく、地域の方々と連携して活動を行ない、地域の方々の健康とウェルビーイングに貢献できればと願う。



⑤ホテルとまちの魅力発信プロジェクト

社会連携課 宮本 泰子

1. プロジェクトの概要

ホテルとまちの魅力発信プロジェクトは、西松地所株式会社が運営する「タッセルイン京都河原町二条」と「タッセルホテル三条白川」と連携して進めるプロジェクトである。2021年に開業され、地域社会との関係性構築を図るなかで「学生さんが社会に出る前に活躍できる場にしてもらえたら」というご担当者の思いもあり、本学に声をかけてくださった。

京都は日本でも有名な観光地であるがゆえに、また、コロナ禍を経て外国人観光客が戻ってきたこともあり、騒音やゴミの問題などをはじめとした観光客と地域住民とのトラブル（いわゆる「オーバーツーリズム」）が再び課題となっている。そこで、2023年度の本プロジェクトでは「オーバーツーリズムの解決や緩和、地域住民と観光客を繋ぐこと」を目標に掲げることとなった。

具体的な企画ミーティングに入る前、西松地所株式会社の皆様のご厚意で、学生たちは2つのホテルにおいて宿泊体験の機会をいただいた。プロジェクトを進めるうえでうまく学生のモチベーションをあげてくださったこと、より具体的に企画を考えるきっかけをくださったことに感謝申し上げたい。

2. タッセルイン京都河原町二条×佛教大学 日本文化体験ワークショップ

学生たちは、外国人観光客と地域住民のどちらにも参加していただく場を提供することでお互いの存在を認知させ行動変化を促したいと考え、日本文化体験ワークショップを2言語（英語・日本語）で実施した。

日時：2023年11月19日（日）9：30～16：30

場所：タッセルイン京都河原町二条前スペース

内容：書道体験、縁日体験（スーパーボールすくい、輪投げ）、タッセルづくり

About us プロジェクトについて

本学プロジェクトでは、西松地所株式会社と佛教大学のコラボレーションとして、「ホテルとまちの魅力発信プロジェクト」の一環として、外国人観光客と地域住民の両方から参加を促しています。今回のイベントは、外国人観光客、学生、地域住民などさまざまな方々を繋ぐ交流の場になれば、という思いで学生たちが考案しました。書道体験・輪投げ・スーパーボールすくいは、それぞれ10分程度の体験ができるワークショップです。ぜひご参加ください！

We, Bukkyo University students, are collaborating with Tassel Inn to connect people in Kyoto with each other. This event is for both tourists from other countries and local people, providing them with unique bite-sized Japanese cultural experiences! Are you interested in mingling with locals and getting sightseeing recommendations that are not in your guidebook? Please join us!

Free Cultural Event!

タッセルイン×佛教大学 日本文化体験ワークショップ

SAVE THE DATE
19 November, 2023
Sunday 9:30-16:30

無料で日本文化を体験しませんか？ Have you ever wanted to experience Japanese calligraphy and traditional games of Japanese festivals? We will have a free cultural event in both English and Japanese! Please join us!

20-second walk from TASSEL INN KYOTO KAWARAMACHI NUSO (Google map)

タッセルイン京都 河原町二条
TASSEL INN KYOTO KAWARAMACHI NUSO
〒614-0913 京都市東区新町東三上1の角26
TEL 075-256-2500
(地下鉄東西線 京都市役所前駅より徒歩約4分)

ホテルフロントにチラシを設置して宿泊客の参加を促すほか、周辺地域のゲストハウスなどの宿泊施設や飲食店、日本語学校にも案内を届け、参加者を募った。

イベント当日、紅葉シーズンのためか通りには多くの方が行き交っており、直接声をかけながらイベントへの参加を促すことができた。アメリカ、デンマーク、フランス、オーストリア、マレーシア、韓国などさまざまな国・地域からの外国人観光客をはじめ、近隣にお住まいの方々を含め総勢 50 名以上が参加された。参加者同士が談笑する場面もあり、交流の場を創出できたといえる。

書道体験をはじめとした日本文化を体験していただくと同時に、ホテルの名称にちなんでタッセル（飾り房）の作成もワークショップに盛り込んだ。宿泊客の皆さんも多く参加され、ホテルのスタッフの皆さんは「持ち帰っていただいたタッセルを見て、京都やホテルのことを思い出す瞬間があれば有難く思う」とお話しされていた。



イベントには近隣のサロンのスタッフの方も参加してくださり、そのお店の店長は、なんと偶然にも学生ボランティア室の学生スタッフをしていた卒業生のお母様だということがのちに分かった。「まちづくりの取り組みには力を入れているため、次回開催されるときはぜひ一緒に取り組みたい」と言ってくださったため、このご縁を大切に、次の取り組みに繋げていきたいと思う。

3. まち歩きマップの作成

京都市の隠れたグルメ情報を発信することで観光客の分散化や満足度向上をめざし、学生たちは佛教大学の学生を対象に「隠れた京都のグルメアンケート」を実施した。その回答から得られた情報をもとに店舗へのインタビューを行ない、まち歩きマップを作成した。イラストからマップまですべて手描きで作成されており、英語・日本語の2言語対応により国内外の方に広く手に取っていただけるであろう。マップは2024年6月からホテルや市内各所に設置予定。

また、まち歩きマップ作成と併せて、ホテル内部の見どころなどをホテルのインスタグラムで発信している。学生目線のコメートをまとめており、写真が好きな学生や普段からSNSでの発信に力を入れている学生が得意分野を発揮する機会にもなっている。



4. 今後の取り組み

2023年度の活動は、学生のアイデアとホテルの客層に関する情報（半数以上が外国人観光客とのこと）を元に、「外国人観光客向けワークショップ」、「まち歩きマップ作成（SNS発信）」の2つの班を設定した。西松地所株式会社の皆さんと協働する中で学生が自ら企画を提案する機会も多く、企業で働く方々からのフィードバックは学生にとって視野を広げるきっかけになっていたと感じる。

また、ワークショップにおいて、旅行で1か月以上日本に滞在しているという外国人と、職場文化のちがいで会話が盛り上がる場面もあり、学生にとっては生の外国語や異文化に触れる国際交流の機会にもなったであろう。まち歩きマップ作成においては、「飲食店の方にインタビューの許可を得るなど普段の学生生活では得られない経験ができた」、「メンバーで制作物を作り上げるという達成感を感じられた」という感想があった。このように、学生たちが自らの経験を成果として認識できるよう、さまざまな方面でご配慮くださった西松地所株式会社の皆さんには、改めて感謝申し上げたい。

今後、さらなる取り組みを通してホテルを拠点として「まちと人、人と人が繋がる」ことにより、本学と地域社会との結びつきも、タッセル（飾り房）のように紡がれていくことを願っている。

6. 地域福祉フィールドワーク事業

見守りホットライン

社会福祉学部教授・専門職キャリアサポートセンター長 加美 嘉史

1. 「子ども食堂&フードパントリーまんぷく」の活動状況—子ども食堂の再開—

「子ども食堂・まんぷく」（主催：北区子ども食堂ネット）は紫野学区の地域住民の方々によって立ち上げられ、そこに佛教大学の学生グループ「見守りホットライン」が参画する形で、2018年2月に「京都高齢者生活協同組合くらしコープ」（京都市北区）の1階で活動をスタートした。

「まんぷく」は家でも、学校でもない、子どもたちの「第三の居場所（サードプレイス）」として、子どもたちの「ありのまま」を受け入れる居場所を目標に活動を行なっていたが、子どもだけでなく高齢者や地域のさまざまな方が集まるようになり、多様な地域住民の「居場所」になりつつあったが、2020年からのコロナ禍によって「まんぷく」の活動も中断を余儀なくされた。

子ども食堂の中断後、「収入が減った、生活が苦しい」「子どもに満足にご飯が食べさせられない」といった地域からの相談が「まんぷく」の関係者に寄せられていた。そのため、2020年6月から地域の人々に食糧を届ける「フードパントリー・まんぷく」として活動を行なうことになった。

その後新型コロナウイルス感染症は、2023年5月から5類感染症に変更され、通常の感染症対策として位置づけられることになり、そのタイミングで中断していた「子ども食堂・まんぷく」を再開することが決まった。また、安全に子ども食堂を行なうためには広いスペースが必要であるため、会場を「北区青少年活動センター」に変更し、「子ども食堂&パントリーまんぷく」として4月22日に再開した。そして、10月からは子ども食堂とフードパントリーを同時に開催することとなった。

2023年度の「子ども食堂&フードパントリーまんぷく」の参加者状況および学生の活動状況は次の通りである。子ども食堂とフードパントリー、双方をあわせた参加者総数はほぼ毎回100人を超えている。

2. 学生の活動状況と学び

「子ども食堂&フードパントリーまんぷく」の活動において学生グループ「見守りホットライン」の学生たちは、この活動に取り組む地域の人々（北区子ども食堂ネット）と協力し、運営を支えている。

主に学生はSNSを活用して、子ども食堂および食糧支援（フードパントリー）の開催案内、活動の報告など「子ども食堂&フードパントリーまんぷく」の宣伝広報活動に取り組んでいる（2024年2月27日時点でのXのフォロワー302人、Instagramのフォロワー305人）。また、2023年度からは主催団体である「北区子ども食堂ネット」の運営委員会に学生も参加することとなった。

そして、毎月の子どもの食堂&フードパントリーの活動時には、会話をしながら楽しく食事をしたあとに子どもたちと一緒にトランプやゲームをして遊んだり、紙芝居の上映、雑談などをして、子どもや参加者が「サードプレイス（第三の居場所）」で楽しい時間を過ごせるよう工夫して取り組んだ。また、学生企画として「折り紙」やメッセージカードをつくり参加者の一人ひとりに配布したり、クリスマス企画などに取り組むことで、子ども食堂&フードパントリーの活動を盛り上げた。

2023年度「子ども食堂&フードパントリーまんぷく」活動状況

開催日	参加者 総数(人)	うち 子ども	うち 学生スタッフ	学生企画
4月22日(土)	117	41	8	子ども食堂&フードパントリー(子ども食堂の再開)
5月27日(土)	103	36	12	フードパントリー(学生企画:折り紙)
6月24日(土)	93	33	5	子ども食堂&フードパントリー
7月22日(土)	100	30	6	フードパントリー(学生企画:折り紙とメッセージ)
8月26日(土)	85	34	5	子ども食堂&フードパントリー
9月30日(土)	104	32	6	フードパントリー
10月28日(土)	98	33	11	子ども食堂&フードパントリー
11月25日(土)	123	50	5	子ども食堂&フードパントリー
12月23日(土)	129	48	3	子ども食堂&フードパントリー(学生企画:クリスマス会)
1月27日(土)	122	46	3	子ども食堂&フードパントリー
2月24日(土)	119	58	4	子ども食堂&フードパントリー
3月23日(土)	126	52	2	子ども食堂&フードパントリー

この活動を通して学生はさまざまな学びを得ている。以下は毎月の活動報告の一部である。

【Kさん・4年生】

私はこの活動を通して、「目に見えることが全てではない」と学んだ。参加者さん一人とってもその方が抱える悩みや不安、家庭環境や事情は様々であり、それはその方を見るだけでは分からない。コミュニケーションの中でのみ、その人を知る事ができるのだと学んだ。

【Sさん・3年生】

クリスマスが近いということで、何か思い出に残る回にしようと、準備段階からバタバタしていましたが、子どもから大人まで、参加者の方達の喜ばれている姿を見て、やって良かったと思いました。

また、小学生のお母さんからも、「ピザやチキンがあるから、クリスマスのご飯を用意しなくてもいい!」とのお声をいただき、少しでも負担の軽減に繋がったのではないかと思います。

【Tさん・2年生】

今月は学生ボランティアが少なく、帰り際に寂しかったと言ってくくださる方がいて、私たちにもいる意味があるんだと思うと、もっと行きたいと思いました。来てくださる方が今月は多く、カレーもみなさんおかわりしておいしそうに食べている姿を見ると私たちも元気をもらいました!



7. 学生ボランティア室

社会連携課 宮本 泰子

1. 学生ボランティア室とは

学生ボランティア室は、社会連携センター内に設置された事務組織であり、社会連携課と学生スタッフが協働して運営している。主な役割は、ボランティアをしたい本学学生とボランティアを必要としている学外団体・施設を繋げる「ボランティアコーディネーション」である。また、学生スタッフ自身もボランティアを企画し、外部の団体と連携しながら本学のボランティア活動の活性化を図っている。2023年度は、本来のコーディネーション機能の活性化、またスタッフ自身の学外ボランティアにおける経験値アップを目指して取り組みを進めてきた。



2. 学外におけるボランティア活動

2023年度は、新たに10名以上のスタッフが加わった。ほとんどがボランティア経験のない学生だったため、まずはそれぞれが学外でのボランティアに参加するよう促した。地域に根付いたボランティアに参加したいという学生の思いから参加した祇園祭の「ごみゼロ大作戦」では、お祭りを陰ながら支える大事な役割を担った。地元の方々や他大学との交流の機会もあり、チームワークの工夫を学んだ貴重な場になった。

このほか、狸谷山不動院では境内まで続く250段の階段を中心に清掃活動を実施。学生スタッフが自ら企画した琵琶湖沿岸での清掃活動や西野山市営住宅でのプラごみアクセサリー作りへの参加、京都マラソンの沿道整理ボランティアなど、地域におけるボランティア活動を積極的に行なった。この結果、月に1回実施している「ボランティア相談会」では一般学生にボランティアの良さを伝えることができるようになった。



3. ボランティアフェスティバル

学外のボランティア団体の方々から直接、学生へボランティアを紹介いただく「ボランティアフェスティバル」は、コロナ禍により4年ぶりの開催となった。2023年度は、子どもキャンプ、国際交流、障害者スポーツ、高齢者支援、環境保護、まちづくり等の分野から10施設・団体にご参加いただいた。本企画は学生スタッフが企画・運営し、より多くの一般学生に参加してもらうため、チラシの作成や学内の看板設置、授業前に宣伝を行なうなど、事前の説明会開催周知にも力を入れて取り組んだ。



当日は、ボランティアを初めてやってみようとする学生も来場し、学生スタッフの誘導のもと、いくつかの団体のお話を聞いたり、チラシコーナーで興味のある情報を見つけたりできた様子で会場を後にしていた。企画した学生スタッフにとっては、団体選定から案内状の送付、会場設営、司会進行など、イベント開催に必要なすべての準備を協力しながら行なったことで、スタッフとしての自信をつけた様子だった。

4. 令和6年能登半島地震の義援金ボランティア

1月24日から3月19日まで行なった「令和6年能登半島地震」への義援金募金活動の一環として、社会連携センター学生ボランティア室と、宗教教育センター学生サポーター団体カルヤナ・ミトラの学生たちが、3月13日、14日、19日に四条河原町交差点（京都市下京区）での街頭募金を行なった。また、3月18日の卒業式当日には紫野キャンパス内で義援金を募った。寄せられた義援金は、佛教大学オープンラーニングセンター（O.L.C.）が実施した「令和6年能登半島地震チャリティー講座」の受講料等と併せて日本赤十字社京都府支部に寄付させていただいた。内訳は右図のとおりである。



街頭募金	： 61,634 円
義援金口座	： 154,285 円
チャリティー講座	： 452,000 円
学内設置募金箱	： 77,397 円
合計	： 745,316 円

皆様の温かいご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

5. 最後に

学生ボランティア室には、当初は「就活の役に立つから」、「大学で何かを始めたいから」というような自分のメリットをモチベーションにスタッフになる学生が多い。しかし、活動を進めるうちに「誰かの役に立つこと、支援の対象や分野を自由に選べる良さ」に気付く様子が伺える。もちろん、各々の自発性のうえに成り立つがゆえに、スタッフ間の熱量の差があることも否定できない。学生スタッフ間のちがいを認め合いつつ、共に地域に貢献しながら成長する学生ボランティア室の雰囲気づくりに努めたいと思う。

8. 学生消防防災サークル「佛敎大学 FAST」

社会学部 准教授 山本 奈生

【佛敎大学 FAST の概要】

本報告は2023年度、社会連携課プロジェクト「佛敎大学 FAST (Fire and Safety Team)」の活動概要を紹介するものである。佛敎大学 FAST は、京都府防災消防企画課（府民生活部）の呼びかけによって形成された「京都学生 FAST」に含まれる一団体であり、本学では当該施策最初期の2014年7月に設立された。

京都学生 FAST は2014年度から開始された行政および大学間連携事業であり、当初は本学を含めて4大学が参与するのみであったが徐々に範囲を拡大してきた。本学は他大学と比較して相対的に活動人員が多く、例えば多くの京都市内における私立大学では5名から20名以内による活動が一般的であるのに対して、本学の場合はおおむね20名以上のメンバーによって構成されてきた。一方で、20年度からはCovid-19の影響があり、新入生勧誘や「社会連携」の活動に大きな制約があったため、部分的にはオンラインでの活動に切り替えつつ、現況で安全に可能な活動が何かを模索する日々の中で、活動メンバー数も減少傾向にならざるを得なかった。本年度から、コロナ感染症の五類移行と全学方針により、活動を再開していく年度となった。

筆者は14年度から本プロジェクトの担当教員として継続的に参与を行ってきた。京都学生 FAST の活動は大学のおかれた地理的条件や参与学生らの問題関心に応じて様々であり、児童向けの防災教室や、地域防災の啓発、参与主体である学生自身の防災訓練、地域社会と接続した防災企画、行政機関の行なう防災行事などへの参加などがある。

一方で、本学の場合は一部の学生がたまたま消防士を志しているといった事例を除けば、学部学科の特色に応じた職業的志向性が、そのまま FAST の活動に反映されているとはいえない。本学の場合はむしろ、友人ネットワークや一般的な意味におけるボランティア意識が活動参与にとっての一般的動機となっている。本学におけるメンバーのリクルートは、(1) 筆者の担当する講義やゼミにおける広報、(2) 大学事務局主催の、社会連携課や学生ボランティア室を通じた広報、(3) 友人ネットワークや先輩後輩のネットワークを通じた直接的な勧誘、これらの三通りによって行なわれてきた。

【活動概要】

本学 FAST は設立当初から大学の位置する楽只学区における、楽只消防分団と連携を行なって地域防災活動に取り組んできた。ここでは北区消防団、北消防署、北区役所など複数の関連行政機関との協働が背景にある。また京都市都市計画局住宅政策課が所管するプロジェクト「3L アパートメント・プロジェクト」にて、集合住宅や伏見消防署、龍谷大学と連携しながら地域活動を行なった。これまでの大きな活動範囲は以下のようなものであり、まずは沿革を提示しておきたい。

(A-1)：消防分団との定例的な、地域防災活動、例えば火の用心への参加（分団は「まん防」「緊急事態宣言」中は活動を行っていないが、それ以外の時期に学生分団員が FAST とは別に、分団として活動を行なうことが可能であった）

(A-2)：消防分団と臨時で行なう、地域防災活動、例えば小学校や児童館などでの防災教室

- (B)：学内で行なう、学生や教職員を対象とした防災活動、例えば AED 講習
- (C)：地域社会で行なう、地元諸団体と連携した行事、例えば「船岡まつり」など
- (D)：行政機関と連携して行なう防災訓練、例えば「中京区総合防災訓練」「3L アpartment・プロジェクト」への参与
- (E)：京都学生 FAST が大学間で共同して行なう行事、例えば「京防災フェスタ」など

このように、本学の場合は地元消防団に軸足を置き、そこから関係する地域諸団体や行政機関、他大学などと共に活動を実施してきた。20～22年度は Covid-19 の影響から学内外での活動に制約があったものの、本年度からは徐々に活動を再開することができた。

時系列順に、まず4月に新入生勧誘のブース出展やキャンパスツアーを行ない、4月22日に田中宮市営住宅にて防災訓練を行なった。5月30日のミーティングでは胸骨圧迫の講習会を行ない、7月に災害ボランティアセミナーが開催された。9月3日の京都府総合防災訓練にも若干名が参加した。9月23日には田中宮市営住宅の「ふれあい祭り」にて消火器訓練と防災クイズコーナーを運営した。11月の鷹陵祭には模擬店出店が行なわれた。また1月11日には本学の防災訓練にボランティア・スタッフとして参加した。

本年度は新入生に限らず、2年生以上も含めて新規参加者があったことは大変幸いであった。参加者の学部学科も多様であり、二条キャンパスの学生や修士課程の大学院生など、参加学生の所属学部学科に広がりがあることは、良い傾向である。

これら以外にも、毎月の定例ミーティングや地元消防分団との「火の用心」を日常的に行なった。これら上述の活動を、難しい状況においても行なうことができたのは、FAST 参加学生・院生の主体的な学びと交流の意欲、そして社会連携課担当者、北消防署、楽只消防分団、田中宮市営住宅や本学近隣の自治会、府市の行政関係者など直接、間接に関連する人々の支えによって可能となったものである。

【次年度の課題】

本年度は、安全面に十分留意しつつ徐々に活動を再開することができた。新規参加者にも恵まれたが、一方で、これまで活動を積極的に担ってきてくれた学生の卒業や修了も予期されるところである。担当教員としては、有意義な活動を長く続けていくためには、参加学生や教職員の特定人物にだけ負担を集中させることなく、「やってみたいことを、無理なく、愉しく」やり、皆で責任を分かち合うことをモットーとして運営補助を担ってきたつもりである。この方針はそのままに、次年度以降参加してくれる学生の主体性に期待したい。本年度の報告文は一般的な団体・活動概要などについて、過年度の報告書に依拠しながら記されたものである。

9. SDGs 推進プロジェクト

社会連携課 田畑 瑛士

2023年度は、SDGsが採択された2015年から、達成年限である2030年のちょうど中間の時期である。2023年7月、国連はSDGsの目標ごとに、2015年以降の世界の進捗状況をまとめた「持続可能な開発目標(SDGs)報告2023:特別版」を発表し、「複合的な影響が原因で、目標達成は危機にさらされている」と報告している。達成できるかどうかも重要であるが、今一度それぞれが当事者としてSDGsに向き合い、将来の世代のための地球環境や資源が守られるよう、行動していくことこそが重要であると考えている。

1. SDGs バッジの配布数

社会連携センターでは、2019年度からSDGs啓発のためバッジを作成し配布している。2023年度も、前年度作成した「知ってる?ぶつだいのSDGs」リーフレットを同封している。年度ごとの配布数は表のとおりである。

	社会連携課前	学生ボランティア室前	二条キャンパス	オープンキャンパス	その他	合計
2021年度	465	76	130	263	24	958
2022年度	269	39	40	850	250	1,448
2023年度	326	—	70	—	—	396

2. SDGs 活動報告ポスターの制作

本学の研究活動を学内外に紹介する「Open Research Weeks 2023」にて、社会連携センターの活動のうち、SDGsの目標と合致しているものを紹介するポスターを掲出した。これらの活動は、どれもSDGsに取り組むことを主目的としたものではない。さまざまな想いで行なっている活動が、自然とSDGsに対する取り組みにもなっているのである。



社会連携センターに限らず、日頃の活動が、振り返ってみればSDGsの「17の目標」や「169のターゲット」に沿ったものであるということは、めずらしいことではない。社会連携センターとして、引き続き学生の社会連携活動を支援することが、SDGs達成への近道であると信じている。

10. 社会連携センター活動記録

①京都市北区連携事業

◆みんなでつくる安心安全なまち北区推進協議会総会

開催日：2023年6月5日（月）

場 所：北区役所3階大会議室

参加者：職員1名

◆災害対策に関わる北区大学・地域懇談会

開催日：2023年9月14日（木）

場 所：大谷大学

参加者：職員4名（総務課、施設課、社会連携課）

◆京都市北区における大学・地域包括連携協定に基づく「令和5年度担当者会議」

開催日：2024年3月

場 所：書面開催

◆北区「WA（わ）のこころ創生事業ネットワーク会議」

第1回

開催日：2023年7月28日（金）

場 所：北区役所

参加者：職員1名

第2回：2024年4月（書面開催）

◆文化庁京都移転記念 北区「WAのこころ」創生講座－文化のWA－

第1回 2023年4月11日（火）／「和食と日本文化」

講師：日本文化史・茶道史研究者 熊倉 功夫 氏

第2回 2023年6月6日（火）／「北山杉の継承」

講師：京都北山丸太生産協同組合理事長 石川 裕也 氏

第3回 2023年8月1日（火）／「危機を乗り越える西陣織」

講師：今河織物株式会社 代表取締役 今河 宗一郎 氏

第4回 2023年10月3日（火）／「日日（にちにち）是（これ）好日（こうじつ）～この混沌社会を可能な限り愉快地に暮らすための芸術～」

講師：日本画家 服部 しほり 氏

第5回 2023年12月5日（火）／「京繡の歴史と未来」

講師：京繡伝統工芸士 長艸 敏明 氏

第6回 2024年2月6日（火）／「日本庭園の魅力とは“なぜ多くの人々に愛され続けているのか”」

講師：作庭家 重森 千青 氏

場 所：妙響庵

協 力：佛教大学オープンラーニングセンター

◆北区民ふれあいまつり

開催日：2023年11月12日（日）
場 所：清明高等学校
参加者：学生1名（運営ボランティア）

◆大学ゼミ×北区役所連携講座 ※ P14 参照

開催日：2024年1月19日（金）
場 所：1-314 教室
参加者：学生24名、教職員2名

◆北区役所へ免許返納チラシを提供 ※防犯啓発・立直り支援プロジェクト

開催日：2024年3月13日（水）
場 所：北区役所
参加者：教職員2名

◆北区学生×地域応援団 プロジェクト会議

開催日：2023年7月21日（金）
場 所：北区社会福祉協議会 会議室
参加者：社会福祉協議会、まちづくりアドバイザー、京都市北青少年活動センター、大谷大学、京都産業大学、立命館大学、佛教大学

◆京都府北警察署との連携事業

○交通安全啓発活動「自転車ヘルメット着用推進」 ※防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト

開催日：2023年5月14日（日）
場 所：大宮交通公園
参加者：学生14名、職員1名

○自転車盗防止啓発

開催日：2023年7月25日（火）
場 所：紫野キャンパス駐輪場周辺
参加者：学生（漫画研究会）、職員1名

○北警察署 4 大学リレー交通安全啓発 ※防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト

開催日：2023年9月28日（木）
場 所：紫野キャンパス駐輪場周辺
参加者：学生4名、教職員7名

○サイバー犯罪防止「SNSの安全利用について」 ※防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト

開催日：2023年10月19日（木）
場 所：西賀茂中学校
参加者：学生8名、教職員2名

○鷹峯小学校 3 年生との「まち歩き」 ※防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト

開催日：2023年10月24日（火）
場 所：鷹峯エリア
参加者：学生4名、教職員2名

○千本北大路交通啓発

開催日：2023年11月7日（火）

場 所：千本北大路交差点周辺

内 容：ライオンズクラブ主催、電柱幕貼替、交差点での交通啓発活動

○千本北大路交通啓発

開催日：2023年12月7日（木）

場 所：千本北大路交差点周辺

内 容：自転車安全運転啓発活動

○北警察署長訪問 ※防犯啓発・立直り支援プロジェクト

開催日：2023年12月8日（金）

場 所：北警察署

参加者：教職員2名、学生5名

○小中高向け警察官ポスター提供 ※防犯啓発・立直り支援プロジェクト

開催日：2024年3月13日（水）

場 所：第3会議室

参加者：教職員2名、学生1名

◆北テロ対策ネットワーク

開催日：2023年4月28日（金）

場 所：イオンモール北大路

参加者：職員3名（総務課、施設課、社会連携課）

◆京都中小企業会同友会北支部9月例会 ※P6参照

開催日：2023年9月29日（金）

場 所：第3会議室

内 容：京都中小企業家同友会、京都市北区役所、本学の連携による鼎談、ワークショップの開催

参加者：学生2名、教職員4名

◆京都市北文化会館自主事業 市民創造ステージ2024 音楽会への運営協力

開催日：2024年2月23日（祝・水）

場 所：北文化会館ホール

内 容：放送局による影アナウンス

②京都市中京区連携事業

◆第1回「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動中京区推進協議会」及び「中京区民ふれあい事業実行委員会」

開催日：2023年5月30日（火）

場 所：中京区役所

参加者：職員2名

◆第2回中京区民ふれあい事業実行委員会

開催日：2023年9月29日（金）

場 所：中京区総合庁舎

参加者：職員1名

◆中京区民ふれあいまつりへの出展 ※P18参照

学生企画まちづくりプロジェクト採択団体（NijoT）による出展

開催日：2023年10月29日（日）

場 所：中京中学校

参加者：学生8名

◆中京区防災会議

第1回：2023年6月（書面開催）

第2回：2024年1月（書面開催）

◆二条駅かいわいまちづくり実行委員会との連携

○二条駅かいわい夏祭り

開催日：2023年7月30日（日）

場 所：BiVi二条前

○梅尾公園清掃

開催日：2023年9月23日（土）

場 所：梅尾公園

参加者：学生約10名、教職員4名

○梅尾公園ふれあいまつり

開催日：2022年10月1日（日）

場 所：梅尾公園

③北野商店街（京都市上京区）連携事業

◆「きたのハロウィン2023」への出展 ※P18参照

学生企画まちづくりプロジェクト採択団体（水上ゼミ「もういちど地域の輪つなぎ隊」）による餅つき、おしるこ配布ブース出展

開催日：2023年10月29日（日）

場 所：北野商店街

参加者：学生10名

④南丹市連携事業

◆京都モデルフォレスト（森林保全）運動 ※P23参照

○開催日：2023年6月17日（土）

内 容：「つながりの森」看板作成

参加者：学生18名、教職員関係者4名、連携機関14名

○開催日：2023年10月28日（土）

内 容：「つながりの森」看板設置

参加者：学生17名、教職員7名、連携機関19名

○開催日：2024年3月9日（土）

内 容：椎茸の菌打ち

参加者：学生9名、教職員8名、連携機関3名

⑤社会連携センタープロジェクト

◆防犯啓発・立ち直り支援プロジェクト ※P32 参照

○交通安全啓発活動「自転車ヘルメット着用推進」

開催日：2023年5月14日（日）

場 所：大宮交通公園

参加者：学生14名、職員1名

○「京都市客引き行為等の禁止等に関する 条例」の啓発活動

開催日：2023年5月29日（月）

場 所：1号館エントランス、河原町通

参加者：学生（漫画研究会、映画部、プロジェクトメンバー）、職員2名

○北警察署 4 大学リレー交通安全啓発

開催日：2023年9月28日（木）

場 所：駐輪場周辺

参加者：学生4名、教職員7名

○サイバー犯罪防止「SNSの安全利用について」

開催日：2023年10月19日（木）

場 所：西賀茂中学校

参加者：学生8名、教職員2名

○鷹峯小学校 3 年生との「まち歩き」

開催日：2023年10月24日（火）

場 所：鷹峯エリア

参加者：学生4名、教職員2名

○北警察署長訪問

開催日：2023年12月8日（金）

場 所：北警察署

参加者：学生5名、教職員2名

○北区役所へ免許返納チラシを提供

開催日：2024年3月13日（水）

場 所：北区役所

参加者：教職員2名

○小中高向け警察官ポスター提供

開催日：2024年3月13日（水）

場 所：第3会議室

参加者：教職員2名、学生1名

◆鷹峯地域活性化プロジェクト ※ P35 参照

○清掃活動（紙屋川）

- ・2023年4月22日（土）参加者：職員1名
- ・2023年6月23日（金）参加者：学生5名、職員2名
- ・2023年11月11日（土）参加者：職員1名

○農業体験（氷室）

- ・2023年4月8日（土）水入れ 参加者：職員1名
- ・2023年4月22日（土）田んぼ整備 参加者：職員1名
- ・2023年5月13日（土）田植え 参加者：学生4名、職員2名
- ・2023年5月20日（土）さし苗、水量調節 参加者：職員1名
- ・2023年5月27日（土）さし苗、水量調節 参加者：職員1名
- ・2023年6月3日（土）水量調節、田んぼ整備 参加者：職員1名
- ・2023年7月2日（日）草取り 参加者：職員1名
- ・2023年7月8日（土）草取り 参加者：職員1名
- ・2023年7月15日（土）草取り 参加者：職員1名
- ・2023年7月22日（土）草刈り 参加者：職員1名
- ・2023年8月5日（土）畑作業 参加者：職員1名
- ・2023年8月12日（土）ご近所のお手伝い 参加者：職員1名
- ・2023年8月26日（土）草刈り、畑作業 参加者：職員1名
- ・2023年9月2日（土）草刈り 参加者：職員1名
- ・2023年9月9日（土）草刈り 参加者：職員1名
- ・2023年9月16日（土）ご近所のお手伝い 参加者：職員1名
- ・2023年9月23日（土）稲刈り 参加者：学生7名、職員1名
- ・2023年9月30日（土）脱穀、藁切、藁撒き 参加者：職員1名
- ・2023年10月7日（土）初摺り、収穫 参加者：職員1名
- ・2023年10月14日（土）草刈り、水量調整 参加者：職員1名
- ・2023年11月4日（土）田おこし 参加者：職員1名
- ・2023年11月11日（土）田んぼ整備 参加者：職員1名
- ・2023年11月18日（土）畑整備 参加者：職員1名
- ・2023年12月9日（土）田おこし、草刈り 参加者：職員1名

◆大学発進（信）プロジェクト ※ P38 参照

○コミュニティラジオ（ぶつ☆ラジオ!）

- 第1回 2023年9月15日（金）ゲスト：株式会社西浅 本部統括 小林達也様
- 第2回 2023年9月29日（金）ゲスト：株式会社メディアインパクト 代表取締役 宮嶋健人様
- 第3回 2023年10月13日（金）ゲスト：株式会社ロマンライフ代表取締役 河内優太郎様
- 第4回 2023年10月27日（金）ゲスト：株式会社 山中油店代表取締役社長 山中平三様
- 第5回 2023年11月10日（金）ゲスト：浄土宗総本山知恩院 おてつぎ運動係副本部長 神田眞晃様
- 第6回 2023年11月24日（金）ゲスト：株式会社満月 代表取締役社長 西浦裕己様
- 第7回 2023年12月8日（金）ゲスト：有限会社横山竹材店 代表取締役 横山裕樹様
- 第8回 2023年12月22日（金）ゲスト：LeapIn 株式会社 代表取締役 外村将大様

- 第9回 2024年1月12日（金）ゲスト：よーじやグループ代表取締役社長 國枝昂様
 第10回 2024年1月26日（金）ゲスト：フラットエージェンシー代表取締役 吉田創一様
 第11回 2024年2月9日（金）ゲスト：株式会社 ONE DROP 小谷亘様
 第12回 2024年2月23日（金）ゲスト：株式会社鼓月 鳥飼優介

◆知ってる？パラスポーツの魅力～ Do You Know the Power of Parasports? ～ ※ P40 参照

○Knocku 車いすハンドボール体験&観戦会 in 佛教大学

開催日：2023年5月20日（土）
 場 所：鷹陵館メインホール
 参加者：学生約15名、教職員2名

○モルック交流会

開催日：2023年6月28日（水）
 場 所：梅尾公園
 参加者：学生5名、教職員1名

○ぶつだいちびっこひろば

開催日：2023年8月30日（水）
 場 所：二条キャンパス
 参加者：学生29名、教職員3名

○車いすバスケットボール体験会

第1回
 開催日：2024年1月17日（水）
 場 所：鷹陵館メインホール
 参加者：学生11名
 第2回
 開催日：2024年2月26日（金）
 場 所：鷹陵館メインホール
 参加者：学生12名

◆ホテルとまちの魅力発信プロジェクト ※ P42 参照

○外国人観光客向けワークショップ

開催日：2023年11月19日（日）
 場 所：タッセルイン京都河原町二条
 参加者：学生5名、職員1名、ホテル関係者2名

○まちあるきマップ作成

発 行：2024年4月
 参加者：学生5名

⑥地域福祉フィールドワーク事業 ※ P45 参照

◆見守りホットライン

○フードパントリー

主催者：北区子ども食堂ネット

場 所：京都高齢者生活協 同組合くらしコープ

- ① 4月22日（土）参加者：学生8名 子ども食堂、フードパントリー
- ② 5月27日（土）参加者：学生12名 フードパントリー（学生企画：折り紙）
- ③ 6月24日（土）参加者：学生5名 子ども食堂、フードパントリー
- ④ 7月22日（土）参加者：学生6名 フードパントリー（学生企画：折り紙とメッセージ）
- ⑤ 8月26日（土）参加者：学生5名 子ども食堂、フードパントリー
- ⑥ 9月30日（土）参加者：学生6名 フードパントリー
- ⑦ 10月28日（土）参加者：学生11名 子ども食堂、フードパントリー
- ⑧ 11月25日（土）参加者：学生5名 子ども食堂、フードパントリー
- ⑨ 12月23日（土）参加者：学生3名 子ども食堂、フードパントリー（学生企画：クリスマス会）
- ⑩ 1月27日（土）参加者：学生3名 子ども食堂、フードパントリー
- ⑪ 2月24日（土）参加者：学生4名 子ども食堂、フードパントリー
- ⑫ 3月23日（土）参加者：学生2名 子ども食堂、フードパントリー

○学生企画「手書きメッセージ折り紙」作成

場 所：1-309 教室

内 容：フードパントリーで配付するメッセージ折り紙を作成しながら地域の貧困を考える。また、団体の活動紹介も行なう。

- ① 4月10日（月）参加者：団体学生スタッフ9名、一般学生1名
- ② 4月14日（金）参加者：団体学生スタッフ8名、一般学生3名
- ③ 4月19日（水）参加者：団体学生スタッフ4名、一般学生11名
- ④ 4月25日（火）参加者：団体学生スタッフ5名、一般学生6名
- ⑤ 4月27日（木）参加者：団体学生スタッフ3名、一般学生2名
- ⑥ 5月12日（金）参加者：団体学生スタッフ10名、一般学生2名
- ⑦ 5月15日（月）参加者：団体学生スタッフ8名、一般学生0名
- ⑧ 7月10日（月）参加者：団体学生スタッフ4名、一般学生3名
- ⑨ 7月14日（金）参加者：団体学生スタッフ5名、一般学生3名
- ⑩ 7月18日（火）参加者：団体学生スタッフ5名、一般学生0名
- ⑪ 12月12日（火）参加者：団体学生スタッフ4名、一般学生2名
- ⑫ 12月20日（水）参加者：団体学生スタッフ2名、一般学生0名
- ⑬ 12月22日（金）参加者：団体学生スタッフ6名、一般学生1名

⑦学生ボランティア室

※ P48 参照

1. 概要

ボランティアコーディネート、ボランティア企画の立案、ボランティア情報の発信

- ・ボランティア登録団体数：58 団体
- ・ボランティア情報受付数：157 件
- ・学生スタッフ数：29 名（4年生2名、3年生8名、2年生9名、1年生10名）

※ 2024年2月時点

- ・機関紙『Maitri』Vol.62 2023年4月1日発行 2,500部

2. 活動記録

◆紫櫻祭（新入生歓迎祭における勧誘活動）

日 時：4月3日（月）、4月4日（火）12：10～16：00

場 所：佛教大学紫野キャンパス

内 容：ブース参加

参加者数：19名

◆新入生歓迎座談会

日 時：①4月19日（水）14：30～16：30

②4月26日（水）14：30～16：30

場 所：学生ボランティア室

内 容：ゲーム等の交流を通して、学生スタッフから参加者へボランティアの体験談等を共有

参加者数：①学生スタッフ6名、一般学生6名

②学生スタッフ7名、一般学生4名

◆キャンパス周辺清掃活動

日 時：①11月14日（火）16：10～16：40

②12月7日（木）16：10～16：40

③12月14日（木）16：10～16：40

場 所：紫野キャンパス正門前～バス停「千本北大路」周辺

参加者数：①学生スタッフ3名、職員3名

②学生スタッフ5名、職員3名

③学生スタッフ7名、職員3名

◆「令和6年能登半島地震」義援金の街頭募金

日時（参加者数）：①3月13日（水）13：30～15：00（学生スタッフ1名、カルヤーナ・ミトラ1名）

②3月14日（木）13：30～15：00（学生スタッフ2名、カルヤーナ・ミトラ1名）

③3月18日（月）11：00～12：00（学生スタッフ1名、カルヤーナ・ミトラ2名）

④3月19日（火）10：30～12：00（学生スタッフ3名、カルヤーナ・ミトラ2名）

場 所：①②④は四条河原町交差点、③は卒業式当日の紫野キャンパス1号館入口前

内 容：宗教教育センター学生サポーター団体「カルヤーナ・ミトラ」と共同で実施

◆ボランティア相談会

日時（参加者数）：①4月19日（水）12：15～12：45（学生スタッフ2名、一般学生0名）

②5月17日（水）12：15～12：45（学生スタッフ4名、一般学生6名）

③6月21日（水）12：15～12：45（学生スタッフ3名、一般学生2名）

④7月5日（水）12：15～12：45（学生スタッフ7名、一般学生1名）

⑤7月12日（水）12：15～12：45（学生スタッフ13名、一般学生3名）

⑥7月19日（水）12：15～12：45（学生スタッフ5名、一般学生5名）

⑦9月13日（水）12：15～12：45（学生スタッフ5名、一般学生0名）

⑧10月18日（水）12：15～12：45（学生スタッフ3名、一般学生0名）

⑨ 11月15日(水) 12:15～12:45 (学生スタッフ2名、一般学生2名)

⑩ 12月13日(水) 12:15～12:45 (学生スタッフ1名、一般学生0名)

場 所：学生ボランティア室

内 容：学生スタッフが一般学生のボランティアに関する相談に対応

3. 学外ボランティア

◆狸谷山不動院参道清掃

日 時：6月18日(日) 14:00～16:00

場 所：狸谷山不動院参道

内 容：参道や階段の落ち葉清掃

参加者数：学生スタッフ5名

◆祇園祭ごみゼロ大作戦

日 時：7月15日(土)、7月16日(日) 17:00～22:00

場 所：祇園四条通周辺

内 容：祇園祭の清掃活動

参加者数：学生スタッフ6名

◆こども班「フリースクール・くらら庵」の見学・体験

日 時：11月19日(日) 11:00～14:00

場 所：中京区西ノ京平町

内 容：不登校の方の学習支援などを行っている施設の見学、こども食堂の調理などのボランティア体験

参加者数：学生スタッフ3名

◆京都マラソンボランティア

日 時：2月18日(日) 9:30～14:00

場 所：鴨川沿い遊歩道

内 容：マラソンランナーの誘導、交通整理のサポート

参加者数：学生スタッフ6名

◆アンドユー（地域のボランティア団体）での活動

日 時：日曜日定期開催

場 所：船岡山公園

内 容：鬼ごっこなど身体を動かす遊びやこどもたちとハロウィンイベント開催に向けての準備など

参加者数：学生スタッフ1名

4. 学外団体合同企画

◆2023年度 ボランティアフェスティバル

日 時：10月12日(木) 13:00～16:00

場 所：7号館 学習情報プラザ

内 容：学外のボランティア10団体招客、一般学生へ紹介の機会を提供

参加者数：学生スタッフ 8 名、一般学生 28 名、職員 3 名

◆洛和会ヘルスケアシステムとの連携事業

(1) 合同ミーティング

日 時：6月16日（金）10：00～11：00

場 所：学生ボランティア室（オンライン）

内 容：今年度の企画について（対面でのキャンパスツアーなど）

参加者数：学生スタッフ 1 名、職員 2 名

(2) 企画ミーティング

日 時：7月13日（木）12：15～12：45

場 所：学生ボランティア室

内 容：対面&動画でのキャンパスツアー実現に向けての準備

参加者数：学生 4 名スタッフ、職員 2 名

◆独立行政法人国立病院機構 宇多野病院との連携事業

(1) 合同ミーティング

①日 時：6月7日（水）14：30～15：00

場 所：学生ボランティア室（オンライン）

内 容：今年度の企画について（キャンパスツアーの動画提供など）

参加者数：職員 2 名

②日 時：6月20日（火）14：30～15：00

場 所：学生ボランティア室（オンライン）

内 容：今年度の企画について（オンラインキャンパスツアーの動画提供など）

参加者数：職員 2 名

(2) キャンパスツアーの動画提供

12月15日宇多野病院様へ完成動画の提供

1月31日視聴会開催

◆ライトハウス iPhone サロン

日 時：10月1日（日）13：00～15：00

場 所：京都ライトハウス

内 容：視覚障がいがある方への iPhone の使い方講習会の協力

参加者数：一般学生 1 名

5. 学内事業への協力

◆北総合支援学校との交流会

日 時：11月17日（金）10：30～12：10

場 所：鷹陵館 多目的ホール

内 容：ボッチャ大会、北総合支援学校の生徒から学生へのインタビュー

参加者数：学生スタッフ 3 名、生徒 8 名

◆佛教大学エコキャンパスプロジェクトへの協力

日 時：2月10日（土）10：00～12：00
 場 所：西野山市営住宅
 内 容：社会福祉法人京都福祉サービス協会からの依頼により、海洋ごみを使った
 アクセサリー工作教室の運営、制作協力
 参加者数：学生スタッフ2名、職員1名

⑧学生消防防災サークル「佛教大学FAST」 ※ P50 参照

◆田中宮防災訓練協力

開催日：2023年4月22日（土）
 場 所：田中宮市営住宅（京都市伏見区）
 参加者：学生9名、教員1名

◆田中宮ふれあいまつり

開催日：2023年9月23日（土）
 場 所：田中宮市営住宅（京都市伏見区）
 参加者：学生2名、職員1名

◆避難訓練への協力

開催日：2024年1月11日（木）
 場 所：紫野キャンパス
 参加者：学生6名

⑨SDGs（持続可能な開発目標）推進プロジェクト ※ P52 参照

◆オリジナルバッジおよびリーフレットの制作・配布

	社会連携課前	学生ボランティア 室前	二条キャンパス	オープン キャンパス	その他	合計
2021年度	465	76	130	263	24	958
2022年度	269	39	40	850	250	1,448
2023年度	326	-	70	-	-	396

⑩学生企画まちづくりプロジェクト ※ P16 参照

募 集 期 間：2023年4月27日（木）～5月26日（金）
 支援対象期間：2023年4月1日（土）～2024年1月28日（日）
 採 択 件 数：7件

No.	プロジェクト名	対象地域	学生数	支援教員	所属学部	支援金額
1	寝屋川スポーツ魅力発信プロジェクト	大阪府寝屋川市	10	大東 貢生	社会	38,940 円
2	京うちわによる京都市上京区の地域活性化プロジェクト	京都市上京区	4	大谷 栄一	社会	50,000 円
3	京版画のワークショップによる京都市北区の地域活性化プロジェクト	京都市北区	6	大谷 栄一	社会	50,000 円
4	京提燈による京都市下京区地域活性化プロジェクト	京都市下京区	6	大谷 栄一	社会	50,000 円
5	わくわく研究室	京都市北区	16	平田 豊誠	教育	47,457 円
6	餅でつなぐ上京の絆	北野商店街	10	水上 象吾	社会	22,950 円
7	二条ワクワクプロジェクト	佛教大学 二条キャンパス 周辺地域	12	白井はる奈	保健医療 技術	47,015 円

◆「京版画にふれよう」ワークショップ

No.3 京版画のワークショップによる京都市北区の地域活性化プロジェクトによる地域の小学生対象ワークショップ

開催日：2023年10月9日（月・祝）

場 所：礼拝堂

参加者：一般来場者 15 名

⑪佛教大学ボランティア支援金制度 ※ P19 参照

募集期間：2023年4月27日（木）～11月15日（水）

支援対象期間：2023年4月1日（土）～2024年1月28日（日）

採 択 件 数：2 件

No.	プロジェクト名	対象地域	学生数	所属学部	支援金額
1	佛教大学高齢者サロンプロジェクト	京都市	11	社会福祉	19,000 円
2	京都府若年性認知症当事者交流会 ～エンジョイエスポーツ～	京都府	37	保健医療技術	49,540 円

⑫委託事業・受託研究

◆ 2023 年度二条駅地域安全ネットワーク ※ P20 参照

◆大津市歴史博物館「大津市内古文書（膳所藩士文書）調査・整理業務」 ※ P21 参照

⑬その他の活動

◆京都市立北総合支援学校との連携事業 ※ P29 参照

○第 1 回

開催日：2023年6月26日（月）：清掃活動

2023年6月27日（火）：販売活動

場 所：清掃活動（5号館5階フロア）、販売活動（紫野キャンパス1号館2階）

○第2回

開催日：2023年9月25日（月）：清掃活動

2023年9月26日（火）：販売活動

場 所：清掃活動（中庭）、販売活動（紫野キャンパス1号館2階）

○第3回

開催日：2023年11月27日（月）：清掃活動

2023年11月28日（火）：販売活動

場 所：清掃活動（中庭）、販売活動（紫野キャンパス1号館2階）

○「学生ボランティア室」との交流会

日 時：11月17日（金）10：30～12：10

場 所：鷹陵館多目的ホール

内 容：ボッチャ大会、北総合支援学校の生徒から学生へのインタビュー

参加者数：学生3名、生徒8名

◆災害ボランティア講座

開催日：2023年7月20日（木）

場 所：1-408・409

内 容：京都市災害ボランティアセンターによる災害まるわかり講座（入門編的な内容で開催）

参加者：学生7名、教職員関係者3名

◆「赤い羽根共同募金」街頭募金

社会福祉法人京都府共同募金会が主催する街頭募金事業への協力

開催日：2023年10月1日（土）

場 所：四条河原町交差点（京都市下京区）

参加者：式典／大藪俊志社会連携センター長

街頭募金／学生1名

◆第9回浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会 ※ P26 参照

開催日：2023年12月2日（土）

場 所：東海学園大学名古屋キャンパス

内 容：京都華頂大学・華頂短期大学、京都文教大学・京都文教短期大学、
東海学園大学、佛教大学による共同開催事業

参加者：学生6名、教職員4名

◆大学等講義×優良中小企業のゲストスピーカー ※ P14 参照

開催日：第1回／2023年12月1日（金）

第2回／2023年12月8日（金）

場 所：1-314 教室

参加者：学生24名、教職員2名

◆京都市福祉ボランティアセンター運営委員会

任期：2021年6月30日から2023年6月開催 定時評議員会終結時まで
氏名：社会学部教授 大藪俊志（社会連携センター長）

◆京都新聞社会福祉事業団「京都新聞愛の奨学金」選考委員

選考委員長：社会学部教授 大藪俊志（社会連携センター長）

◆南丹市指定管理者選定評価委員会

任期：2022年7月～2025年6月
委員長：社会学部教授 大藪俊志（社会連携センター長）

◆3L APARTMENT プロジェクト@田中宮 運営協議会 ※オブザーバー参加

第1回：2023年6月（書面開催）
第2回：2024年2月21日（水）学生報告会、運営協議会（オンライン参加）
参加者：教職員2名

⑭ホームページ掲載記録

◀研究・社会連携▶ 2023年度お知らせ一覧（日付はホームページ掲出日）

- 2023.4.14 「京都市ふるさと納税」で、佛大生の社会貢献活動支援ができます
- 2023.4.14 漫画研究会・映画部が「京都市客引き行為等の禁止等に関する条例」啓発物を作成しました
- 2023.4.17 本学学生が鴨川茶店で認知症サポートサービスの普及活動を実施しました
- 2023.5.9 【モデルフォレスト運動】2023（令和5）年度活動予定
- 2023.5.10 「2023（令和5）年度春 緑の募金」に取り組みました
- 2023.5.12 車いすハンドボール日本代表 藤原芽花選手（教育学部3年生）の提案で「車いすハンドボール体験イベント」を開催！【5月20日（土）】
- 2023.5.15 鷹峯地域活性化プロジェクト 氷室で田植えを実施しました
- 2023.5.15 自転車の交通事故防止対策イベントに運営協力しました
- 2023.5.23 「車いすハンドボール体験&観戦イベント」が開催されました
- 2023.5.30 『客引き（キャッチ）禁止』啓発活動を実施しました！
- 2023.6.19 美山町にて2023年度第1回（通算40回目）のモデルフォレスト運動（森林保全活動）を実施！
- 2023.6.23 鷹峯地域活性化プロジェクト 紙屋川の清掃活動を実施しました！
- 2023.6.28 社会福祉学科の学生が高齢者サロンを実施しました
- 2023.6.28 【知ってる？パラスポーツの魅力】 榎尾公園でモルック体験会を開催しました
- 2023.6.30 学生がアプリ開発に協力
- 2023.7.4 京都市立北総合支援学校との連携事業（2023年度1回目）を行いました！
- 2023.7.7 新井康友ゼミ（社会福祉学部）で認知症サポーター養成講座を開催
- 2023.7.14 8月30日（水）、二条キャンパスで「ぶつだいちびっこひろば」を開催！
- 2023.7.24 【佛教大学高齢者サロンプロジェクト】 スマホ教室を実施しました
- 2023.7.26 【自転車盗難防止啓発】 漫画研究会がデザインした懸垂幕を学内へ設置！

- 2023.7.26 災害ボランティアまるわかりセミナーを開催
- 2023.7.31 学生が二条駅かいわい夏まつりに出演しました！
- 2023.8.25 西野山市営住宅でまちづくりボランティアに参加！
- 2023.9.1 二条キャンパスで「ぶつだいちびっこひろば」を開催しました！
- 2023.9.11 「第30回世界アルツハイマーデー 2023 in KYOTO」に学生がボランティアとして参加！
- 2023.9.25 鷹峯地域活性化プロジェクト 氷室で稲刈を実施しました！
- 2023.10.2 二条キャンパス南側の梅尾公園にて清掃活動を行いました！
- 2023.10.2 佛教大学 FAST が田中宮ふれあいまつりに参加しました！
- 2023.10.3 佛教大学 学生企画「京版画にふれよう」ワークショップ開催
- 2023.10.6 京都中小企業家同友会北支部の例会を本学で開催しました
- 2023.10.11 京都市立北総合支援学校との連携事業（2023年度2回目）を行いました！
- 2023.10.16 社会学部大谷ゼミの学生が「京版画にふれよう」体験ワークショップを開催しました
- 2023.10.24 4年振りにボランティアフェスティバルを開催しました！（学生ボランティア室）
- 2023.10.24 「防犯啓発・立直り支援プロジェクト」西賀茂中学校でサイバー犯罪防止啓発活動を実施しました！
- 2023.10.26 Halloween × 餅つきで幅広い世代の交流を！佛教大学社会学部の学生が北野商店街で餅つきを開催
- 2023.10.31 美山町にて2023年度第2回（通算41回目）のモデルフォレスト運動（森林保全活動）を実施！
- 2023.11.1 「中京区民ふれあいまつり2023」に作業療法学科学生が参加しました！
- 2023.11.1 社会学部水上ゼミの学生が北野商店街のハロウィンで餅つきを開催！
- 2023.11.8 教育学部臼井准教授と学生が大宮交通公園で「ワクワクのりものコンサート」を開催！
- 2023.11.13 【ホテルと学生が協働！】外国人観光客・地域住民等を対象に、日本文化体験イベントを開催！
- 2023.11.15 「防犯啓発・立直り支援プロジェクト」鷹峯小学校3年生との「まち歩き」を行いました！
- 2023.11.15 千本北大路交差点にて、自転車の交通事故防止啓発活動を行いました
- 2023.11.15 「防犯啓発・立直り支援プロジェクト」防犯啓発活動のプレゼン実施！
- 2023.11.17 「第9回浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会」で大谷ゼミの学生が発表します
- 2023.11.22 鷹峯地域活性化プロジェクト活動状況①（紙屋川清掃編）
- 2023.11.22 鷹峯地域活性化プロジェクト活動状況②（氷室でのお米づくり編）
- 2023.11.24 ホテルと協働し、外国人観光客や地域住民を対象に日本文化体験イベントを開催しました！
- 2023.11.28 「佛教大学高齢者サロンプロジェクト」社会福祉学部の学生がスマホ教室に協力しました
- 2023.12.4 北総合支援学校の生徒と学生ボランティア室学生が交流会を実施！
- 2023.12.11 「第9回浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会」で大谷ゼミの学生が発表しました
- 2023.12.11 「佛教大学高齢者サロンプロジェクト」社会福祉学部の学生がスマホアプリの啓発活動に協力しました
- 2023.12.19 「防犯啓発・立直り支援プロジェクト」北警察署長への防犯啓発活動のプレゼン実施！
- 2023.12.20 「第19回 京都から発信する政策研究交流大会」で優秀賞を受賞しました
- 2023.12.20 京都市立北総合支援学校との連携事業（2023年度3回目）を行いました！
- 2023.12.25 「大学等講義×優良中小企業のゲストスピーカー」を大藪ゼミで開催しました
- 2023.12.26 エンジョイ！eスポーツ 若年性認知症当事者による当事者のための交流大会を開催しました

- 2024.1.24 社会連携センター 2023 年度活動報告会を開催しました
- 2024.1.24 パラスポーツをもっと身近に！学生を対象に車いすバスケットボール体験会を開催しました！
- 2024.1.24 被災地支援ボランティアを考えている皆さんへ
- 2024.2.2 学生ボランティア室が宇多野病院にキャンパスツアー動画を提供
- 2024.2.14 西野山市営住宅でプラごみを活用したワークショップを開催しました！
- 2024.2.20 障がいの有無に関わらず"誰もが主役になれる"パラスポーツの魅力を学生が学生に伝える「車いすバスケットボール体験会」を開催
- 2024.3.12 美山町にて 2023 年度第 3 回（通算 42 回目）のモデルフォレスト運動（森林保全活動）を実施！
- 2024.3.15 「防犯啓発・立直り支援プロジェクト」啓発ポスターとチラシを提供しました
- 2024.3.28 「令和 6 年能登半島地震」への義援金募金活動の報告と御礼

⑮社会連携センター運営会議開催記録

< 2023 年度 社会連携センター運営会議 >

- | | | | | |
|--------|------------------|-----|---------------|-----------|
| 第 1 回 | 2023 年 4 月 19 日 | (水) | 16:35 ~ 17:20 | 於：第 4 会議室 |
| 第 2 回 | 2023 年 5 月 24 日 | (水) | メール会議 | |
| 第 3 回 | 2023 年 6 月 14 日 | (水) | メール会議 | |
| 第 4 回 | 2023 年 7 月 5 日 | (水) | メール会議 | |
| 第 5 回 | 2023 年 9 月 7 日 | (木) | メール会議 | |
| 第 6 回 | 2023 年 10 月 11 日 | (水) | メール会議 | |
| 第 7 回 | 2023 年 11 月 1 日 | (水) | 16:30 ~ 17:10 | 於：第 4 会議室 |
| 第 8 回 | 2023 年 11 月 29 日 | (水) | メール会議 | |
| 第 9 回 | 2024 年 1 月 17 日 | (水) | メール会議 | |
| 第 10 回 | 2024 年 2 月 14 日 | (水) | メール会議 | |
| 第 11 回 | 2024 年 3 月 8 日 | (金) | 10:30 ~ 11:00 | 於：第 4 会議室 |

11. 資料 社会連携センター組織、規程

①佛教大学社会連携センター規程

平成24年4月1日

改正 平成25年4月1日

第1条 佛教大学学則第62条に定める規定により、佛教大学社会連携センター（以下「センター」という。）を置く。

第2条 本規程において「社会連携」とは、建学の精神である仏教精神に基き、＜他者との共生＞＜内なる自己の発見＞＜人間力の涵養＞という理念・目的を具現化するために、多様な社会と連携することをいう。

2 本規程において「ボランティア」とは、学生が自発的に行なう非営利の社会的貢献活動をいう。

第3条 センターは、学生および教職員等による社会貢献事業等の推進ならびに展開を行なうとともに、それらを通して学則第1条に定める人材の育成を行なうことを目的とする。

第4条 センターは、その目的を達成するため、次の事業を行なう。

- (1) 社会連携に係わる調査研究に関すること。
- (2) 研究支援、技術交流および学術研究の戦略的推進に関すること。
- (3) 地域交流に関すること。
- (4) 知的資源の広報に関すること。
- (5) 学内外のボランティア活動に関する情報収集をするとともに、それらの情報活動の提供に関すること。
- (6) 学生等に対するボランティア活動への参加機会の紹介をするとともに、学生等への助言と支援に関すること。
- (7) その他、社会連携事業に関すること。

第5条 センターの事業および運営に関する事項は、研究推進機構会議（以下「機構会議」という。）において審議する。

第6条 センターの実務および運営に関する事項を協議するために、社会連携センター運営会議（以下「運営会議」という。）を設ける。これに関する規程は、別に定める。

第7条 センターの事業を行なうために、センター長を置く。

2 センターの事業を円滑に進めるために、センターに社会連携（コミュニティキャンパスを含む）部門およびボランティア部門を置くことができる。

3 前項を運用するために、必要に応じて次のものを置くことができる。

- (1) 社会連携コーディネーター
- (2) ボランティアコーディネーター
- (3) 研究員ならびに研究補助員

4 センターの運営に学生の協力を求めることができる。

第8条 センター長は、学長が任命する。なお、任期は1年とし、再任を妨げない。

2 センター長は、センターの事業を統括し、その事業の適正な運営に当たる。

第9条 第7条第3項第1号および第2号に定める者は、社会連携ならびにボランティア活動に経験と識見を有する者とする。但し、採用についての規程は別に定める。

2 第7条第3項第3号に定める者は、社会連携に係わる調査・研究および調査・研究の補助を行なう経験と識見を有する者とする。但し、採用については別に定める。

3 第7条第3項に定める者は、センター長のもとで、第4条各号に定める事業を行なう。

第10条 センターに関する事務は、研究推進部社会連携課がこれにあたる。

第11条 本規程の改廃は、研究推進機構会議の議を経て、大学評議会の承認を得なければならない。

附 則

第1条 本規程は、平成24年4月1日から施行する。

第2条 本規程の施行により、「ボランティア室規程」(平成14年4月1日施行)、「佛教大学コミュニティキャンパス室規程」(平成16年4月1日)は廃止する。

第3条 本規程は、平成25年4月1日から改正施行する。

②社会連携センター運営会議規程

平成24年4月1日

改正 平成30年4月1日

改正 平成30年7月1日

第1条 本規程は、社会連携センター運営会議（以下「運営会議」という。）の構成および運営について必要な事項を定める。

第2条 運営会議は、社会連携センター長、センター長の推薦に基き研究推進機構長が指名する教員若干名、社会連携課長をもって構成する。

2 運営会議は、必要に応じて前項に掲げる構成員以外の者を出席させ、報告および説明または意見を求めることができる。

3 運営会議は、研究推進部の所管とする。

第3条 運営会議に、議長と副議長を置く。

2 議長はセンター長が務め、副議長は運営会議構成員の互選によって選出する。

第4条 センター長は、運営会議を招集し、会務を統轄する。

第5条 運営会議に関する事務取扱は、研究推進部社会連携課がこれにあたり、協議事項等にかかわる資料作成および議事録等、運営会議に関する事務を処理する。

第6条 運営会議は、次の事項を協議し、その議案を研究推進機構会議に提出する。

- (1) 産学官公ならびに地域等との連携・交流に関する事項
- (2) 前号の教育研究活動の支援・推進に関する事項
- (3) コミュニティキャンパスに関する事項
- (4) 学生ならびに教職員のボランティアに関する事項
- (5) 社会連携センターの事業計画および予算編成に関する事項
- (6) 社会連携センターの自己点検・評価に関する事項
- (7) その他、社会連携センターに関する必要な事項

2 運営会議は、機構会議の求めがあれば、運営会議における協議経過を報告しなければならない。

第7条 コミュニティキャンパスに関する事項は、別に定める。

第8条 運営会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開催することができない。

第9条 運営会議の議決は、出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

第10条 本規程の改廃は、研究推進機構会議の議を経て、大学評議会の承認を得なければならない。

附 則

第1条 本規程は、平成24年4月1日から施行する。

第2条 本規程の制定に伴い「ボランティア室規程」(平成14年4月1日施行)、「佛教大学コミュニティキャンパス室規程」(平成16年4月1日施行)は、廃止する。

第3条 本規程は、平成30年4月1日から改正施行する。なお、コミュニティキャンパス拠点施設北野の廃止に伴い、「コミュニティキャンパス北野拠点施設規程」(平成25年4月1日施行)および「コミュニティキャンパス北野拠点施設利用細則」(平成25年4月1日施行)は、廃止する。

第4条 本規程は、平成30年7月1日から改正施行する。なお、コミュニティキャンパス拠点施設美山の廃止に伴い、「コミュニティキャンパス美山拠点施設規程」(平成25年4月1日施行)および「コミュニティキャンパス美山拠点施設利用細則」(平成25年4月1日施行)は、廃止する。

③社会連携センター組織

< 2023 年度 社会連携センター構成員 >

社会連携センター 大 藪 俊 志 (センター長、社会学部教授)
内 田 仁 (研究推進部 部長)
社会連携課 山 下 仁 男 (課長)
海老原 星 太 (課員) 2023 年 9 月異動
宮 本 泰 子 (課員)
田 畑 瑛 士 (課員) 2023 年 10 月配属
派遣職員 1 名

< 2023 年度 社会連携センター運営会議構成委員 >

大 藪 俊 志 (センター長、社会学部教授)
市 川 定 敬 (仏教学部 准教授)
持 留 浩 二 (文学部 教授)
網 島 聖 (歴史学部 准教授)
堀 家 由妃代 (教育学部 准教授)
水 上 象 吾 (社会学部 准教授)
高 木 健 志 (社会福祉学部 教授)
白 井 はる奈 (保健医療技術学部 准教授)
山 下 仁 男 (社会連携課 課長)

12. 編集後記

この度、『佛教大学社会連携センター年報』第10号を刊行いたしました。

2012（平成24）年度に、研究推進機構のもとに「社会連携センター」が設置されました。本センターは、「学生および教職員等による社会貢献事業等の推進ならびに展開を行なうとともに、それらをとおして学則第1条に定める人材の育成を行なう」という目的のもと、①社会連携に係わる調査研究に関すること、②研究支援、技術交流および学術研究の戦略的推進に関すること、③地域交流に関すること、④知的資源の広報に関すること、⑤学内外のボランティア活動に関する情報収集をするとともに、それらの情報活動の提供に関すること、⑥学生等に対するボランティア活動への参加機会の紹介をするとともに、学生等への助言と支援に関することなど、これらを事業の柱として展開してきました。

本年報はこれまで、「社会連携センター」が行なってきた各種事業や活動内容の記録をまとめて毎年刊行されてきた経緯があり、これらの活動の歴史的な変遷や総括、課題を確認することができる「年次報告書」的な役割も果たしています。今回はその年報が記念すべき「第10号」の刊行となりました。

この間、「新型コロナウイルス感染症」の蔓延により、社会活動が大幅に制限されてきましたが、2023（令和5）年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に引き下げられたことにより、社会活動の規制緩和が大きく進み、「コロナ禍明け」とともに社会全体が再び活発な動きを取り戻しました。学内においても学生が大学に戻り始め、「社会連携センター」の事業や活動もこれまで以上に活性化が図られた2023（令和5）年度になりました。

今回も本年報の活動報告にもあるように、各種活動に積極的に参加し、協力していただいた学生諸氏、その学生たちを傍でご支援いただいた先生方、また数多くのセンター事業にご協力いただいた学内外の関係各位の皆さま、そして多くの事業を展開するにあたり力を注いでくれた社会連携センター（社会連携課）の職員各位に、厚く御礼を申し上げます。

本年報を手にしていただきました皆さまには、ぜひ、「社会連携センター」の事業・活動についてご一読いただき、これらの取り組みに対して忌憚のないご意見、ご指導などを頂戴できればと思います。

改めまして、ご多忙中のなか、本センター事業の推進ならびに年報の原稿執筆等に関して、多大なるご尽力をいただきました関係各位の皆さまに心より感謝と御礼を申し上げます。

2024年6月

研究推進部長（2023年度）
内田 仁

佛教大学社会連携センター年報 第10号

2024年6月30日発行

編集・発行 佛教大学社会連携センター

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

TEL: 075-493-9002（直） FAX: 075-493-9088

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/>

E-mail: liaison@bukkyo-u.ac.jp



佛教大学